うえだ

社団法人 上田高等学校同窓会関東支部会報

6月5日（木曜日）
1975（昭和50年）
季刊

第13号

発行所
上田高等学校同窓会関東支部事務局
発行責任者　大森頼雄
編集責任者　花岡　惟
埼玉県川口市並木町2—11—6
矢島鋳工㈱内
電話　0482—53—2662（代表）

題字は故稲垣征夫氏筆

記念品贈呈
大会出席者に、おなじみの校章と六文銭を染めた手拭を贈呈します。

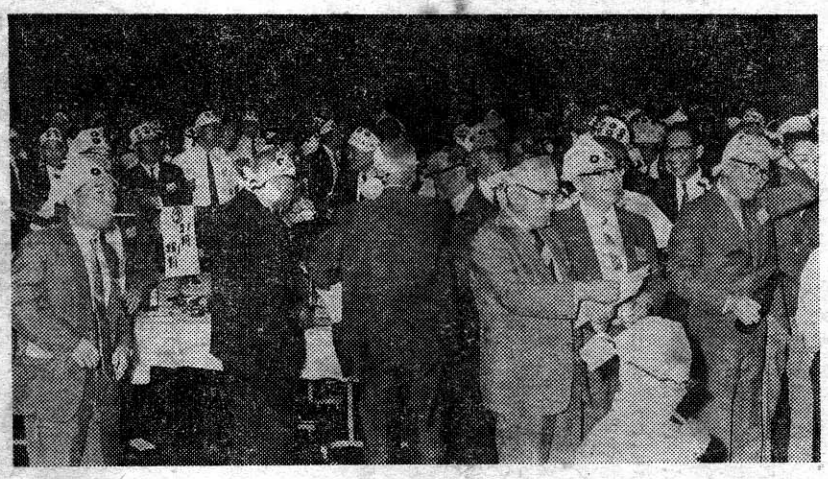
古き先輩若き後輩よ 一堂に集い来たれ!!

—春縹渺の末けむる……あゝ、誰か故郷を思わざる—
歌わんかな青春の歌 語りあかさん古城の門

来る六月二十七日（金）別掲の要項により、第十四回上田高校関東支部大会が開催される。夕方の五時受付開始、六時開会。会は一部二部に分れており、第一部は定期総会で約四十分、第二部は懇親の宴となっている。この第二部が例年大変な盛上りを見せて、老いも若きも感激のるつぼの中に我を見失い、かつて古城の門をくぐり頃の青春に一挙に戻る語る者、歌う人、踊る集団、それは、まさに上田健児の夏の祭典といえよう。月末だ、忙しい、そんなことが理由になるだろうか？忙しいのは、みんなが忙しいのだ月末は貴公のみの月末ではない。みんな月末だ。要は、参加することだ。出てくることだ。物価高だ、インフレだ。ストライキだと、もう部会はうんざりすることばかりである。「秋れいろうの空衝きてゆうべ太郎の嶺高し……」。校歌の一節を口ずさんでみていただきたい心は、あの若草もゆる信濃の高原に飛んで行く。千曲の清流、東浅間の噴煙、あゝ誰か故郷を思わざる。先輩、後輩の一大団欒の輪は広がり、必ずや「来てよかった！」という会になるはずである。今年こそ、なんとか部合をつけて出てみようではないか。一人一人の自覚による出席が盛会につながるのである。切に願うは、あなたのご出席である。

この「うえだ」も十三号になる。この大会は第十四回を迎えた。これは大変なことである。三千名からの会員諸君にこの会報を送る仕事一つを考えてみてもおわかりにならう。これもあれも役員諸賢の献身的努力の賜物であると同時にあの古き校門に学んだという共通性と母校愛の発露である。

今回の来賓としてお招きしてあるのは、現学校長、同窓会本部の理事長、上田市長、旧師（二名）僚友校として、東信地区（十九校）南信、中信、北信地区より各一校である。当日は六文銭の旗も立てよう、鉢巻きも用意しよう。そうして、笑顔、笑顔若き日のあの血潮のたぎりを会場いっぱいに溢れさせよう。



写真は、昨年六月二十九日の第13回の定期総会および懇親宴会の風景

大会準備委員長を
＝御引受けして＝

副支部長（30）尾台　三吉

上田高等学校同窓会の皆様には益々御健勝で各方面に御活躍の事およろこび申上げます、去る四月十八日の幹事会において、第十一回大会以来今回再び大会準備委員長に推され、重大な責任を感じています。幸にして有能な幹事、特に若手の諸兄の献身的御協力を頼りにこの大任を無事果したいと存じます。

同窓会の運営は楽しい事でもありますが、会員は各年代層に及び活動分野も多岐に亘り、之を皆様の御希望に沿う様まとめる事は、幹事諸兄の縁の下の力持努力なくしては出来ない事であります。幸にして関東支部関係者は団結と情熱で、大会も十四回に及び、会報「うえだ」も昭和四十四年創刊以来充実した内容となり、この際編集員の方にも感謝いたす次第ですまた同窓会の運営の基盤は、会員の熱意の他、財政面と会員名簿の整備であります、前者は皆様御協力で赤字からしばらく脱却する見通しとなり、名簿の準備も着々進行中なのは、御同慶にたえません。

つい最近十三回大会を終りほっと一息したと思っておりましたがあっという間に一年経過し、今更時間の貴重な事を痛感いたします折角の機会でありますので、楽しく有意義に過される様、また万障御繰合はせ多数御参加下さる様御願致します。

関東支部名簿
作成について
—会員諸氏の御協力をこう—

前号第十二号（昭和四十九年十一月発行）の会報「うえだ」に、本会、関東支部名簿発行の件について、その発行予定をお伝え申し上げ、早速に編集部としては、その作成に着手し始めています。

既に去る四月十八日の「幹事会」において各期代表幹事に事務局保管の原簿写しを、別別に作成し、各期幹事に手交し説明してその編集の第一歩をふみ出しています。

前号にも発行計画の大要を列記致しましたが、再びここに再録加筆し、同窓諸氏の絶大なる御支援御協力をお願い申し上げます。

一、発行予定　昭和五十年十一月
一、型　状　A五版
一、登載会員　関東地区居住の会員、約三千二百名
一、会員記載事項　（氏名）（郵便番号）（現住所）（自宅電話）（勤先名称及び役職名）（勤先電話）（出身地）以上
一、主な記録　（社団法人上田高等学校同窓会定款抄）（上田高等学校同窓会、関東支部会則）（上田高等学校沿革）（関東支部沿革）（校歌）（凱歌）（応援歌No.1、No.2、No.3）（上田讃歌）（賛歌）（信濃の国）（信州男子の歌）（母校写真）その外

名簿代　金一千円也

名簿掲載の広告募集について、各期の代表幹事に期毎に全面的にお願いすることにします。

広告料は「全頁」「½頁」「¼頁」の三種類とする。

全頁代金　金弐万円也
½頁代金　金壱万円也
¼頁代金　金五千円也

広告原稿ノ切日、昭和五十年八月三十一日。

申込先、各期、自己期幹事へ申込まれたし。

各期幹事諸氏には誠にお世話さまですが

一、名簿申込希望者数
二、名簿への広告申込数と原稿を、とりまとめ九月上旬開催予定の幹事会にご提出下さい。

◎名簿の配布は各期幹事により年末年始の「同期会」においてお渡し願う予定です。

名簿編集委員
副支部長（31）矢島　五郎

社団法人 上田高等学校同窓会 関東支部第十三回大会

一、日　時　六月二十七日（金）午後五時受付開始 六時開会・九時閉会
一、会　場　東京農林年金会館 港区芝西久保巴町三六の一 電話（432）七二六一（大代表）
一、会　費　三千円也
一、道　順　◎地下鉄日比谷線＝神谷町下車三分 ◎地下鉄銀座線＝虎ノ門下車七分 ◎国電＝新橋鉄下車十三分

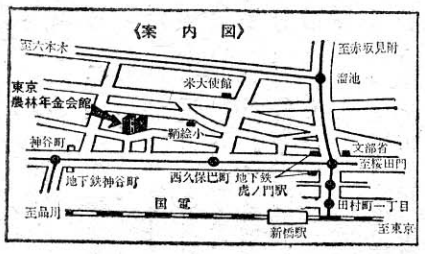
◎大会次第

第一部　定期総会（午後六時）

一、開会の辞　司会・副幹事長（40）小林
二、校歌斉唱　本大会委員長・副支部長（30）尾台　三郷
三、挨拶　支部長（23）大森　頼
四、報告事項　幹事長（36）神野　勝
一、会務報告　会計幹事（47）牧内　男
一、決算報告　監事（22）柳沢　正春
一、監査報告　幹事長（36）神野　操
一、事業計画　会計幹事（47）牧内　男
一、昭和五十年度予算案　副支部長（31）矢島　五郎
五、閉会の辞

第二部　懇親宴会（午後六時四十分）

一、開宴の辞　司会・副幹事長（44）柳沢
二、来賓歓迎の辞　副支部長（28）坂井　実
三、来賓紹介　支部長（23）大森　頼
四、来賓代表挨拶　幹事長（36）神野　勝
五、乾杯　興　杯
六、余　歳　三　唱
七、万　歳　三　唱
八、閉会の辞　副支部長（31）矢島　五郎



皆様のサロンです　お気軽にご利用下さい
結婚式・宴会・宿泊
地下酒寮　信濃路
おはづけ、ひたし豆、蜂の子等で地酒を楽しんでいただく望郷の酒場です
国際ホテル　八峰閣
取締役　横関嘉伸（39回）
お問合せは☎(982)1181番　豊島区南池袋2—15—10

ハマダスター700CD
600CD 900CD-X
全自動小型オフセット印刷機
東京ハマダスター株式会社
代表取締役社長　清水　幾男（38期）
本社　東京都中央区日本橋兜町2丁目42番地
〒103（兜ビル）
電話（03）667—0061番（代表）
支店　北海道支店＝札幌市・東北支店＝仙台市
営業所　旭川・青森・秋田・新潟・長野・静岡・高崎・水戸

先輩後輩も融け合って
手拍子たゝいて楽しい夕べ
―関東支部幹事会兼新年宴会―

関東支部の幹事会兼新年宴会は未だ寒気厳しい二月十四日（金）午後六時から東京農林年金会館に於いて開かれた。

第一部の幹事会は坂井副支部長（28期）の開会の辞に始まり、大森支部長（23期）の元気一杯な挨拶で蓋を開けた。

次いで議事に入り、経過報告と共に上半期の計画事項を神野幹事長（36期）が一括説明すると共に質疑応答を行った。

先づ、経過報告については、会報十二号の配布状況を説明すると共に計画事項も次の順序で併せて説明した。

一、次回幹事会4／18　二、本部同窓会総会出席有志幹事　三、会報十三号印刷完了五月下旬、発送六月二日予定（十四回支部大会案内を兼ねる）四、大会出欠締切六月廿一日　五、第十四回支部大会六月二十七日開催予定　六、関東支部名簿発行

右議案については活発な討論が行われたが、原案通り可決、続いて牧内会計幹事病欠の為、林会計幹事（58期）が故障機運にある現在の会計を報告、最後に矢島副支部長（31期）が前述の各議案を補足説明を行ない乍ら、閉会した。

◇

第二部の新年宴会に入る頃は、出席者は続々と増えて申込人員の四十五名を大幅に超え、来賓を含めて五十三名という盛況となり、いつもながらの関東支部の熱意で会場はムンムンするような雰囲気である。

30期の尾台副支部長の開宴の辞は愈々酣となった。

三千円の新年会費にしては、若干卓上が淋しい感じがしたが、飲む程に酔う程に会は最高潮となり追分節やら望月小唄やらで先輩後輩は渾然一体となって手拍子をたたき、床が抜けん許りの楽しい新年会となった。

善き哉上田高校同窓会、楽しき哉新年会。

来賓予定の柳沢学校長は残念乍ら風邪の為欠席されたが、岩下元校長、松浦先生が来賓として出席特に松浦先生は又得意の映画撮影で幹事を言ばして下さった。尚当日の司会進行は、副幹事長の小林（40期）が林会計幹事の補佐を受け乍ら行い、辛うじて及第点に達した。

次回を期する次第である。

（40期・小林会計事務所長・小林郷司）

五十年度の第一回幹事会兼新年宴会に出席した幹事の皆さん

不況だ…みんなで勉強
第五回目　経済問題懇談会開く

大森支部長（23期）の挨拶に続いて来賓を代表して小山参議院議員（31期）の祝辞、乾杯は前支部長の島田相談役が音頭をとられて宴「不況ですね、みんなで集って勉強しよう」。「不況だ、一杯のんではげましあおう」という気運がもり上り、ここに第五回目の経済問題懇談会が開かれました。一筆その概況をご報告しましょう。

【日時】　五〇年二月二十五日午後六時から。恵比寿の「みづほ」にて。会費三、五〇〇円。月末であるので、ご出席は多くて二〇人ぐらいかと予想されましたが三三人ものご参加をいただき、実に盛会。

【講演等】　宮坂三吉（三一期）先輩に乾杯の音頭をとっていただき開会。同先輩は、同窓会関東支部の発足に当たり、大いに尽力なされた方であることを付言。詳細は、会報「うえだ」第二号八面、「関東支部の歩み」をご参照下さい。

まず、「我等が同窓会」と題して、同窓会副支部長であられる矢島五郎先輩（三一期）からお話を拝聴。いつもどおりの、簡にして要をえた格調高い名調子。初めて矢島節を聞かれたある出席者が、しきりと感心。ご出席の皆さまに同窓会活動の全体像をはあくして頂けた点において、実に有意義。

つづいて、国会開会中の多忙のさなかを駆けつけて下さった参議院議員の小山一平先輩（三一期）から、ご所感の一端を拝聴。その親しみのもてる話しぶり、その謙虚なお人柄をしのばせる語調に、一同思わず拍手喝采。同先輩の一層のご健闘を祈るや切。

しばらく酒杯を傾けたあと、東海大学の井沢保さん（五三期）の「円の先行きについて」というお話。今日、一番問題視されているテーマだけに質問集中、当会ならずばの鋭い質問に講師も一汗。とにかくご苦労さん。

つづいて、山一証券の滝沢敦美さん（46期）から「景気の動向」というテーマでのお話。同証券経済研究所において、前月公表された研究成果を記した資料（「政策転換と株価の動向」）を一部づつ配付。そのご熱意に感謝するや大。第四回目同様スマートにまとめられたお話。

ちょっと酒杯を傾けたあと自己紹介。やはり三十期代の方々は、記憶に残る上手なごあいさつ。土屋学先輩（三一期）、花岡偉先輩（三五期）、石倉謙一先輩（三五期）みなしかり。年というものの重みと厚さを痛感。四十期代の方々は、不況だと深刻な顔はされているが、バイタリティーに富んだごあいさつ。新進気鋭な五十期代の諸兄は、意欲的な雰囲気で、かつスマートな自己紹介。春日敦美さん（四六期）の「不況なもんで本業の他に、こんど墓石を造り初めやしたが、とても良いという評判です。社長として、ここでもっとPRをしてもうけたいが、こればかりは、入ってみなければ調子はわからないので、この程度で…。皆さん景気のわるい時こそ頑張りやしよ」というお話に、一同思わず爆笑。不況も吹き飛ばされる明かるいムード。十時半、小山一平、土屋学両先輩のご先唱で万歳を三唱して解散。

【次回】　五月中旬ごろではどうか、ということになりました。

【参考として】　当懇談会は「経済を中心とした諸問題の勉強会を作ろう」という若手同窓会員の声に応え、催されたものです。会則なし、会費なし。第一回目―四六・八・一六（講師坂井実雄矢島五郎両先輩。一八人出席）。第二回目―四七・三・三（講師矢島、滝沢正、深井安児夫各先輩。二九人出席）。第三回目―四九・三・二一（講師矢島先輩の他、野村サンケイ新聞論説委員と坂本行政管理庁副監察官、三四人出席）。第四回目―四九・十一・二六（花岡、丸山英八、滝沢敦美の各先輩、二五人出席）

（48期・小木曽誠）

東信地区連合会総会の報告

去る四月二四日午後六時から中央線高円寺駅近くの根津会館で、長野県高等学校東京同窓会東信地区連合会の、定時総会が開催されました。これは毎年一回各校の同窓会から役員など五名の代表者の出席をもって開催するという会の規約に基いて、当関東支部からは大森支部長、矢島副支部長、花岡編集委員長、石倉、村田両編集委員の計五名が参加した。

山岸文雄会長（上田東高校）のあいさつが述べられたが、それによると、長野県には高校が一〇三校あり、東信地区（上田市、小諸市、佐久市、南北佐久郡）には一九校、今回の総会には、そのうちの一七校の参加申込みがあった由来賓として本部同窓連から役員の小沢氏のあいさつがあったが、他の地区ではこのように多数の学校が参加することはないそうである。

当連合会は規約にも記されてあるように親睦会という性格のものであり、特別に何か事業をするというものではなく、宴会を伴う総会が主要な事業という事になる。従って予決算報告等型通りの議案審議がスムーズに終ると二部の宴会となる。

上田関係では、本校の他に上田東、染谷、上田千曲の三校が参加した。宴会になると各校からそれぞれ隠し芸の競演となり、マイクを通してノド自慢が次々と披露された。本職ではないが、バンドの伴奏も付くという、盛大さであった。

九時近くなって宴も終り、われわれのグループが外に出て高円寺駅に来たところが、偶々本同窓連ではおなじみの北佐久農業校の依田さん（前会長）や野沢南校（女子校）のメンバー等と一緒になった。二次会という程ではないが、まだ時刻は早い、近くでコーヒーでもということになり、数校のメンバーが駅前の喫茶店で暫し歓談の一刻を過した。

野沢南校は本総会には五名のフルメンバーで参加した。数ある参加校の中でフルメンバーで来たのはわれわれのほか極めて少数であり、その少数の中に入った野沢校の意気には、改めて敬意を表した次第。

（35期・石倉謙一）

新入りですよろしく

こんど、会報の編集部に拉致されて泣いております。

コワイ大先輩のところに、原稿をとりにいかされることを思っていまから心配しております。

〝シメキリ〟という言葉だけがたよりの61期・小林秀芳です。くれぐれもよろしく。

ハノイで平和を想う

49期の小林喜六氏（旧姓小宮山）から昨年六月ハノイを訪問した原稿をいただきました。その後政治情勢も大きく変わりましたので、その部分だけ削除させてもらいました（編集者）

この前ハノイを訪問したのは、一九七一年の二月から三月にかけてであった。あの当時は、国道九号線を通じてラオスに侵攻したアメリカと南ベトナムの混成軍とが大敗を喫し、ベトナム戦争の帰趨が決定された時期であっただけにベトナム民主共和国（北ベトナム）の緊張もそのピークに達していた。あれから三年ぶりに訪れたハノイはカラフルになった女性のブラウスにも象徴されるように、どことなくのどかであり、平和というもののすばらしさを痛感せずにはおられない。

ハノイに来て当地の要人との会談の中で感じたことは、パリ和平協定でベトナム人民がその民族の基本権である主権と独立を守り通し、とにもかくにも、アメリカ軍とその従属国の軍隊をベトナムの土地から追い出すことに成功したことは、確かに大きな勝利ではあったが、ベトナムの南部を解放し南北ベトナムが統一し、同胞が同じ屋根の下に住めるようになるまでは本当の勝利や平和はやってこないということのようである。

そしてサイゴン政府がパリ協定に違反して作戦を繰り返している一方、アメリカ政府が軍服を背広に着替えさせた二万五千人にも及ぶ軍事顧問団を南ベトナムに駐留させ、相変らずサイゴン政府に対する軍事的経済的援助を続けている以上、北ベトナムとしてもいささかも気を緩めるわけにはいかず、南ベトナム解放軍の大後方としての任務を一層推進しなければならない立場におかれている。しかし自から平和を破壊しようなどとはこの国は少しも考えていないように思われた。

さて、いつ来ても感じることではあるが、樹令八十から九十年にも達し、二十メートル以上の高さがあるのではないかと思われる大きな街路樹でおおわれているハノイは、「森の都」といわれるだけあって、さすがにすばらしい。それにテレビの一般家庭への普及がこれからという段階にあることもあって、彼等の日常生活そのものは大変静かである。「詫」（わび）や「寂」（さび）が改めて想い出される程、喧騒とした東京の生活とはかけ離れているものを感じる。

その街路樹の下の歩道では疎開先から引揚げて来た子供達が、女の子はゴム跳びや石蹴り遊びをし男の子は小さなボールでフットボールなどをしながら、夜になったのも忘れて遊びに熱中している。私たちが子供の頃には、多分このようだった記憶があるが、今日の日本の子供達に、このような天真爛漫な遊びがなくなりつつあることは気掛りであり、当地に来て子供の本来的な姿を見て改めて考えさせられる。

ハノイの労働者の勤務時間は午前は六時半から十一時まで、午後は二時半から六時までで、十一時から二時半までは昼食と昼寝の時間である。この時間には殆んどの人が自宅へ帰る。昼寝とは優雅にみえるが、四月から九月までの間ここでは連日三十度Cを越すような暑さが続くのを考えてみれば、これは生活の知恵なのであろう。戦時中もこの昼寝は決して取止めにはならなかった。そのことを少しも衒うでもなく、永い間戦争を強いられてきたここの人々はごく当り前と考えている。

出勤と退社時は自転車のラッシュである。ここでは自転車は交通機関として大きなウェイトを占めており、人口の割合からは世界一であるといわれるだけあって、そのラッシュ時の光景は圧巻である。

戦争が終ったばかりのこの国は日本に較べれば確かに貧しい。しかし彼等はその貧しさを少しも隠そうとはしない。このことは将来きっとすばらしい社会主義の国を築きあげてみせるという自信があるからなのであろう。経済的には貧しいが、ここの人々が人情的であることはどこの国にも引けをとらないだろう。それが、この国の社会主義体制を成功裡に導びいている秘決かも知れない。

現在、ハノイには日本人は十一人しか滞在していない。商社マンは私以外には一人だけで、あとはマスコミ関係と技術者である。こんどハノイに来てびっくりしたことは、この数少ない日本人の中に上田高校の十二年後輩である平林千秋氏が新聞社の特派員としてハノイで大変な活躍をしていることだった。まさかハノイに来て上田松尾を語り、信州を語り合うとは思ってもみなかっただけに、このめぐり合いは全く望外の喜びであった。母校の有難さを、この時ほど身にしみて感じたことはない。

これから二年半もハノイに駐在しなければならない平林氏のご活躍とご健康を祈らずにはいられない。六月から夏休みになったせいか、もう夜の九時を少々廻っているというのに、子供達の甲高い遊び声がホテルの三階の部屋にまで聞えてくる。平和とはなんとすばらしいものなのであろうか！

（一九七四年六月六日　ハノイ、ホワビンホテルにて）

（49期・小林喜六＝旧姓・小宮山）

バッタリ同窓の平林氏
上田を語り信州を語る

小林郷司事務所

公認会計士　小林郷司（40期）

（丸子町上丸子出身）

（税理士・中小企業診断士）

事務所　〒101　千代田区神田鍛冶町3―3（共同ビル）　電話（252）8801
自宅　〒177　練馬区関町4―甲748―9　電話（920）6736・6748

TKC　コンピュータシステム

牧内会計事務所
(株)川口計算センター

所長・代表取締役　牧内　操（47期）

〒332　埼玉県川口市青木2―2―7　川口ビジネスセンタービル
【電話】川口（0482）51―3414（代表）

ヨーロッパ紀行

36期　深井安児夫

昨秋、八月から九月にわたり、通訳と女房帯同して、三人でノンビリ、ヨーロッパ旅行をしてみた。三人となると、単身の心細さと不案内は解消されるが、行く前から、先輩や友人は、レストランに行くのにビフテキを持って行くようなものだ〆止めたがよい。と真剣に忠告してくれ、日の丸弁当持参は……などと、からかわれもしたが、小生至って生真面に、今までの罪ほろぼしが主目的のため……と汗顔した次第である。

いよいよ出発となると、あのレセプション。このパーティーと、女は持物が多くて往生した。しかしヨーロッパでは、空港にも駅にも手押車が多く準備され、駅の階段も傍らに傾斜があり、わが国よりは、重い手荷物や、多くの個数を一度に運搬できるし、タクシーは身体だけ乗れば運転手が荷片付けてくれる。ホテルでもボーイがタクシーから室内へ、室内からタクシーへと運んでくれる。ただしここで申しそえて強調したいのはタクシーに乗るにも、エレベータに乗るにも、真っ先に乗ろうとして、運転手やボーイに遮られ、女を先に……には閉口した。女房に徒らな優越感を植付けてしまった。

北極廻りヨーロッパ空路は一番退屈するコースであったが、通訳子と二人で飲み続けてしまった。従って機内では、トイレと座席の往復が繁しくなる、周囲とスチュアデスの比較の眼差しだけが気になるころ、西独ハンブルグに着いた。

西独も不況の風が吹き荒れ、銀行の倒産、失業者の続出と、不景気の波は各所にみられたが、失業者の多くは、イタリア、トルコ、ギリシャからの出稼者が大半であって、西独人は大変少い、とある経済人は話してくれた。一般にドイツ人は日本人と同じによく働く。その中でも女性の勤勉さには敬服する。また各種企業の合理化、省力化はなかなか徹底している。

例えば駅などには、駅員の姿はほとんど見当らず、駅のプラットホームも街の歩道も全く同一で、キップは自動販売機、列車の到着行先、普通、急行、国際列車などは構内放送と電灯点滅掲示で間に合わせている。列車が到着すると大勢の車掌さんが駅員を兼ねている。車内には多くの車掌が下車駅の手前で切符を取り上げる。乗客の安全と省力化で本当に合理的である。

ドイツ人は真の親日家ぞろいであるから、始めての方は、日の丸のマークを胸なり腕に付けてゆかれたら、どこへ行っても歓迎されること間違いない。予め訪問先に手紙を出しておくと、その歓待振りは大変なものである。

ヨーロッパ人は一般にそうであるが、大変歴史を尊重し、古いものを大事にする。これは、小さくは家内（うちうち）で、大きくは街自体が、しかして国自身も大変に旧古を大切にすると共に各人の自慢にもしている。古城、古寺院などその保存の良さに敬服する。その証拠に街の至る所に胴像や胸像、石碑などがあり、公園や市役所、街の広場や教会周辺、劇場や博物館などに多く鳥受けられるのも一驚する。

西独の街々はハンマーの鎚音も高く、空高く組み上げられたクレーンの柱が方々に立ち並び、ヨーロッパでは一番活気にあふれていたように思われ、働いている青年も、我々が働いてEC圏を食わせているんだ！というような意気込みが読みとれた。時あたかもイタリアが国家的に破算寸前で、西独から二〇億マルクの借款が成立したニュースが伝わった直後だったからかもしれません。

機会があって東独、との国境線（ベルリン以外の）を見つめて来たが、無気味そのものであった。西独側は、国境線沿いにアスファルト舗装された広い道路が走っていたが、厚く高いバラ線添いに東独側は、バラスの敷き詰められた我国の造った許りの新道のような広い道が目に入った。

筆者は、案内人に、東独と西独の経済力の差が如実に道路の違いで明白だ。と言ったら、あれは道路ではない、地雷敷設帯だ。と言われて背筋がゾッとした。改めて眺めると、二キロ間隔に哨戒塔が建ち、境壁には鉄線にシェパードが繋留されている厳重さであり、改めて大戦の後遺症がまざまざと甦えって来た次第である。隣り部落に嫁いだ娘の顔を……孫の姿を一年に一回定められた日に逢う瀬を待ち焦れている姿は、戦争の悲哀が三十年を経た今日まだ続いている点、大いに考えさせられるものがあった。

ヨーロッパは、緑が美くしい、手入の行き届いた森や林の中に延々とアウトバーンが続き、処々に鹿に注意の標識が目に飛び込む。樹木を大切にすることについては大変なもので、自分の庭樹一本切るにも営林署の許可が必要である由。道路が広く、屈曲が少いから時速二〇〇㌔で走っても余りスピード感がないのには驚いた。

夜景の素晴らしさを楽しみ、静かな音楽に聴きほれながら夕食をとったり、ハンブルグ、フランクフルトなどでは、民衆酒場で大ジョッキを傾け、判らないドイツ民謡にスクラム組んで一〇〇人以上の酔客のドヨメキの中に溶け込んだり、最後には、大人だけの劇場に女房同伴で……通訳子、案内者ともどもホテルへの車中疲れて黙したままであるが、それぞれ先刻のショーに別々の想像を回らしていることだろう。筆舌に尽し難し。

若い学生連中の間には、ブルージーンズが大流行している。教授はさすがに三つぞろいの紳士然としていた。これ等の社長、教授、労働者、学生が混然一体となるのが宴の酒場だ。政治を談じ、文学を論じ、科学を討論している。それぞれのグループもバイオリンやアコーディオンの音に、談論は美事に止まり、一斉にコーラスに早変りである。歌が終るとバイオリン子、チップの集金と相成る。誠にドイツ人は陽気だ。

スイスは、平和そのものだ。首都ベルンの近くのフルブリールに陣取り、フルブリール大学の生化学教室やコスメタル研究所などを訪れ、高級レストランでの招待目の前で仔牛の膝上の肉を焼き、スープを造って……などの夕食や民兵や学生の酒場を徘徊しながら語り合う大学教授や博士連中の研究室や教室では聞けないエピソードを二、三紹介致しますと……

その一人、ノーザー博士は、フルブリール大学を、4年の過程を12年間かかって卒業した。学費が無くなると休学届を出して、小学校の教員をやり、再び学校で学ぶ。ということを二、三回繰り返えしている間に、ほかの学生は大学院を経て博士になるのに、休学中に学位論文が完成してしまった二ヵ月後に三ヵ月間の兵役召集を受けているそうだ。民兵制度が徹底していて、訓練召集は都合悪ければ期間変更も出来るが務めて来ねばならぬ由。従って、鉄砲や服装などは一そろい自宅に保管してあるそうだ。鉄砲でも剣でも紛失したら、各道具屋に売っているからそろえて行けば良いとユーモア混じりに話して呉れた。

フルブリールの街は古く、四世紀頃から谷底のような川岸から発達し、次第に丘の上の方に発展してきた。年代別建築様式が高低の差で歴然としていた。旧市街を大事にし、もし古くて改築する場合も表面は故装前と寸分変形なし、という条件で許可される。という。

街の古美術商のウィンドウに日本の浮世絵や日傘などが並べているのも嬉しかったが、ホテルの部屋には、サンヨーのカラーテレビチューリッヒの駅のホームにナショナルのテレビが山積してあり、街の中にはトヨタの車が走っている風景は、E・C圏に如何に日本製品が多いか、の象徴といえよう。このユートピア的スイスにも最近犯罪が増加している。これはほとんどイタリアの出稼ぎ者によるもので、彼等はイタ公と呼び、大変迷惑そうに眉をひそめていた。

牧歌調的スイスは何回尋ねても素晴らしいなーと思った。晴天に恵まれジュネーブから、アルプス連山に副い、オーストリアの首都ウィーンまでの空の旅は全く絶景である。機内でワインに舌鼓を打ちながら、スイス航空の嬪〇さんの説明に聞き入っている姿は神妙そのものである。

ウィーンは街全体が芸術の街、音楽の街といわれ、至る処に楽聖の銅像が建ち、博物館、美術館が並び、町外れの音楽の森、広大な公園、宮廷、宮殿、夏の離宮とナポレオン全盛時代の華麗さが保全され、繁華街のオペラ座の偉容は第二次世界大戦で80％まで破壊されたものを寸分変りなく再建されたものと聞く。内部は客席と舞台とほとんど同一面積で、舞台装置の壮重なことは、世界三大オペラ座、ミラノ、パリをはるかに凌いでいる。

ウィーン大学のファルコ教授を尋ねたが、地方学会に講演中とか古い古い校舎を通り抜け、宮廷馬術を見学、筆者等の業界の世界大会々場に出席、夏の宮殿のレセプションに出て市内見物に繰り出した一団と行を共にしてみた。観光はやはり団体旅行に限る。とそこで初めて感じた。幸いにウィーン音楽大学を終え、同校で教職にある黒沢氏の案内も良かった。私達が旅行するときの一切の世話をする日本の旅行社の心遣いがあったためかもしれない。

花のパリに四、五日滞在し、完成ホヤホヤのシェルトンホテル十九階に陣取り、パリを一望する部屋は良かった。モンパルナスの駅近く、ナポレオンの墓のドームは眼下、その左後方にエッフェル塔右側にノートルダム寺院、その後方に棟の長いルーブル、その右後方にモンマルトの丘。窓の最左端にプローニュの森と眺望絶佳である。

相変らずパリには日本人が多いモンマルトルの教会傍で絵を売っている日本の若者が五、六十人位タムロしている。エッフェル塔の下で所在なさそうに、知人と待ち合わせているわずかの時間に、既に二十人近くの日本人がガイドの申出に来る仕末。サントノーレ通りでカルダンやデオールの店に群って、トップモードとやらを漁っているのも黒人の娘さんの外は日本人が多く全く恥入った次第だ。何処へ行っても日本人の良きカモ振りを発揮しているわけだ。

次から次へと観光団が多く、案内人も自由圏からの観光団には、豪華絢爛なフランス大国の昔日を語り、共産圏からの団体には、人民の血税と犠牲において、このような規模のものを造った封建性を話しかける、などなかなか心得たものである。

もっともフランスは農業国で、別に他国への特別の輸出品はないから、ファッションを売る以外に方法がない。したがってファッション・デザイナーはアーチスト勲章を国は授与して保護、奨励に勤めている。

本物のパリジェンヌは、ファッションのライフ・サイクルが一巡したバーゲンを買っている、と永年パリに住んでいる日本人が説明してくれた。中近東のオイル・ダラは酒長の娘、村長の孫のバッグに詰め込まれ、パリへパリへと流れているだろう、と結んだ。そして次が日本人観光客かな……、ともつけ加えた。判るような気がする。

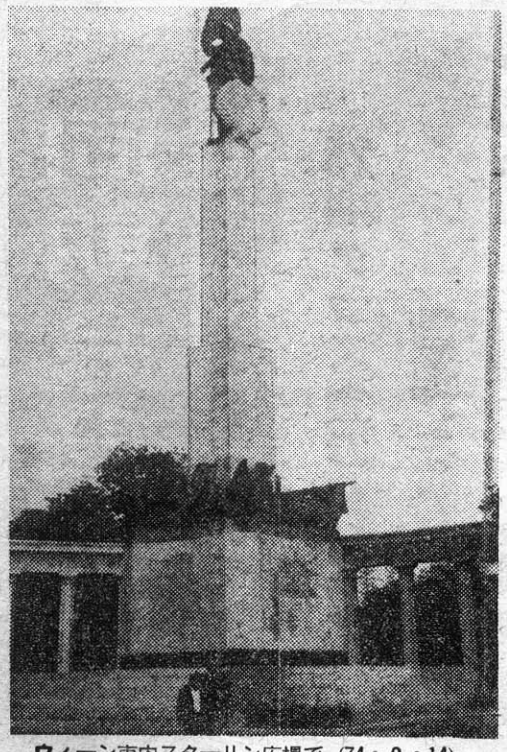
パリの美、ベルサイユの美など殆んど人工の美であり、人造の美は、日光や奈良、京都と余り変るところがない。日本の方が自然の美を豊富に取り入れた調和については数段的美的感覚に勝っているような気がしたのは、あに筆者のみではないと思う。マロニエが紅葉で美くしい、というからルクサンブール公園に行ってみたが、ただプラタナスの並木の手入れの行き届いた葉が、秋風と共に枯れ始めて褐色がかっている風景であって、わが国の黄、赤、青と色とりどりの美くしさとは全く異り、焚火の火勢で庭木の葉先が枯れてくるのと寸分変らない。

ロンドンは、連日の雨で閉口した。市内中に不況風が吹き、紙屑がビルの谷間に吹き溜り、ウィンドウの服も靴も正価を消して、特価に書き換え、道行く人の注目を集めようとしている主立化学校を訪れる機会に恵まれ、染料合成の教室を尋ねると、開口一番、日本は怪しからん、西独には負けるが北海油田を持ちながら英国は石油ショック以来六月末で一〇％の倹約をしている。昨年秋のローソク生活は英人は忘れていない。西独は一三％、全量輸入に頼っている日本は一％とは……と、呆然として答える術がなかった。

また言葉を続けて、かつて日本は英国の世界繊維市場を奪って経済成長した。今日は後進国にその市場を奪われようとしている。過去の英国の味わった辛酸を受ける日も近いだろう、と。反日思想の持主かと疑ったら、さにあらず天皇、皇后の訪英を喜び、答礼に女王の訪日に近親性を抱く典型的英国紳士のメーカー助教授であった。

雨の止んだ夜、ケンシントン公園前のロイヤル・ミュージック・ホールに招待され、円形劇場で、出入口が二十数ヶ所もあるホールにてマックロード博士を待った。集まる紳士淑女、タキシードにイブニングと皆盛装で、ジーンズやジャンパー姿は一人も見受けなかった。男性は帽子に洋傘、髪や髯の手入はご立派。女性の盛装姿は絢爛たるものである。

パリのシャンパン酒場も平服であり、Gパンスタイルも数多かったが、ロイヤル・ミュジック・ホールは、演奏中唯一つなかったのもさすが、と感じた。全く音楽や芸術的才能の無に等しい人間である筆者も雰囲気に飲まれて付合って仕舞った。周囲のムードとは恐ろしいものだと思った。

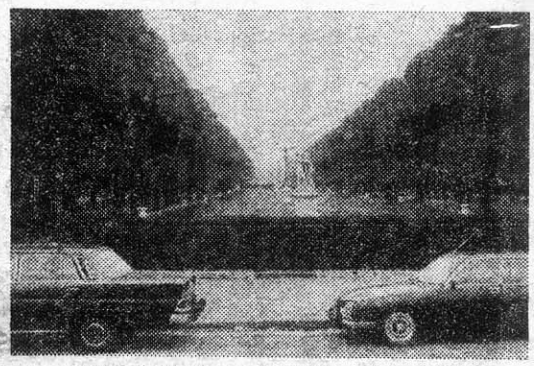


ウィーン市内スターリン広場で（74・9・14）

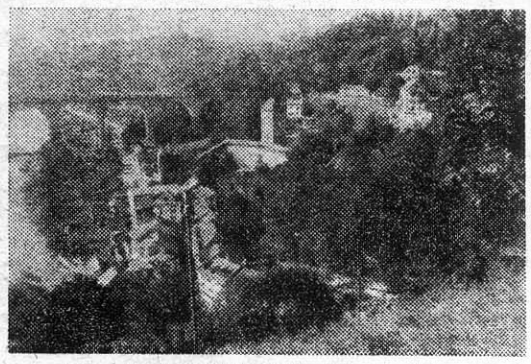
奥さん同伴の旅

日頃の罪ほろぼしにと…

どこにもいる日本人観光客



パリ中央公園マロニエの並木（74・9・20）



スイス・フルブリール市（74・9・12）

商業建築　設計・施工
室内装備・装飾
（有）沖央インテリア総業
瀬下昌孝
（56期　東部町出身）
本店・台東区根岸3－6－21
TEL（874）8917（代）
船橋店・船橋市馬込沢駅前
TEL 0474（38）7447

一級建築士事務所
柏葉設計所
主宰　石倉謙一（35期）
〒177　練馬区富士見台1－9－20
電話　03－999－2401

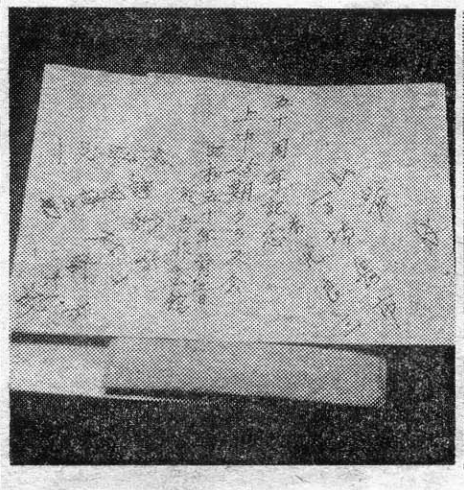
プラスねじ、ピン類各種、流量計各種
自動ねじ組付機各種外省力化装置各種
Nitto
日東精工株式会社
取締役社長　福井祐司
常務取締役　馬場長市（25期）
東京都品川区西五反田7－22－17
（TOCビル9階）
TEL 03－494－2441（代）

同期会の集い

50年目で初参加！

25期クラス会の岡村氏

〝常連〟を喜こばす！



昭和五十年三月三日午後六時より、馬場幹事の肝入りで二年振りに25期のクラス会を五反田駅そばの吾作会館で開いた。

集る者、馬場、福田の両幹事はじめ、常連の吉沌、山岸、鈴木の三君及び小生の外に五十年振りで岡村盛太郎君（旧性長沢）が初めて参加された。歓談している内に昔の長沢君のイメージが段々とはっきりして来る。ソ連に抑留されて身心共に大変なダメージをうけとても苦労された事が話の中にジワジワと滲き出て、只々で苦労様でしたと申し上げたい。今はすっかり元気になられて五十年振りに上中時代の悪童達と過ごし思い出を語り会ったのは何よりのよい思い出となる事でしょう。

当日出席予定の三井君は、勤務先幹部のご不幸に遭い急に欠席となり、又萩野、宮入両君はこの会合を楽しみに出席の通知を出しながら萩野君は、会場が見当らず、宮入君は日取りを取り違えて共に欠席となり、堀内君は当日急に風邪のため欠席するとの電話あり、出席予定十一名が七名となったことは残念であった。

馬場君の持論である、六十五才以上のOBは、医療費も無料であり、大体第一線を退いている者が多いのだから、関東支部会費を自由制として、拠出の義務を免除し出してもよいと思う者だけ自由意志により出す様にしたらいいのじゃないかと話が持ち出され、満場一致で賛成、次の幹事会に是非提案せよということになった。また今年の夏頃、心のふるさと別所温泉で郷里の仲間達と卒業後五十周年を記念して合同クラス会を計画中と発表され、一同今から心の躍る思いであった。

昔話に、また新らしい歌、古い歌が次々と披露され、仲々宴は何時果てるともわからぬ程であったが、段々と夜もふけてゆくので最後に校歌、凱歌、応援歌を合唱し拍手の裡に名残りを惜しみつつ会を閉じた。

（25期後藤政一記）

三月三日には三三会（在京）

去る三月三日、麻林年金会館において在京三三会を開催した。

松田仁兵衛先生は奥さんご同伴でお二人あわせて一五〇余才とは思えないほどの若々しさを、山形県からお運び頂きました。いままでの会合といえば、自分の腹時計で時間をはかって出席するので、定刻になっても、なかなか開宴できず幹事泣かせが多かった。しかるに今回は何十年ぶりで先生のお声に接するという喜びと、待ちかねていた一年ぶりの会合の楽しさの期待もあって、一時間以上も前から会場に乗り込んで、思い思いに輪陣をつくって歓談を開始。待ちきれない御人は、適当にアルコールを飲み出す始末。保科幹事が開宴を宣告する頃には、相当に御機嫌さんとなっていた。

乾杯の音頭は会員名簿の記載順に従って、朝日仁一君の音頭で、

昭和50・3・3
在京上中三三会
於農林年金会館

三三会の発展と会員の益々のご健勝と松田先生ご夫妻のご長寿を込めて乾杯した。乾杯が終わると、もう一瀉千里の勢いで歓談の花が満開した。歓談は先生との思い出郷里の級友や欠席した会員の近況と、つぎからつぎへと展開した。欠席者の中で常連の田中弘毅、橋本利政の両君が入院中であるので一日も早いご快復を全員で祈った次第である。

宴たけなわになって全員の合唱する黒田節で、奥さんが見事な舞をご披露くださった。

最後には村上慈紀雄君の音頭で閉会の杯を交わして散会した次第である。

当日の出席者は次のとおり。

朝日仁一、荒井和夫、飯塚茂男、五十嵐八郎、五十嵐正人、池田久夫、石井正六、大塚義平、加藤鉄司、川崎喜久治、北沢茂、小松辰雄、佐藤次男、坂本俊夫、白井善臣、椎塚三夫、鈴木真二、竹内　重、竜野宗男、土屋利一、土屋三男、中曽根五郎、中沢亮太、西沢一恵、弘世弘信、比留間金雄、保科　厳、村上慈紀雄、松田仁兵衛先生ご夫妻（山形県から）、中村辰男（上田市から）

（33期　弘世弘信記）

関東地区大会には27名！

＝45＆46期卒同級会

四十五、六回卒業生関東地区同級会を、三月二十五日（火）池袋八峰閣において午後六時より開催した。久しぶりの再会を喜びあう顔と顔、三十年ぶりという面々もおり、いつしか上中時代の少年にかえり、信州弁丸出しで往時を語りあったのである。

いままでグループ毎には会を開催しておったが、今回の様に多くの級友に声をかけたのははじめてである。但し幹事の不行届の為連絡もれが若干あったが紙上より深くおわび申上げるとともに、若し更に心当りの向きは何卒幹事迄御連絡を賜ります様御願い申上げる次第である。

今回の状況を数字からみると左の通りである。

出席者数	二十七名
欠席者数	十八名
住所不明	五名

末返答　二十名

但し会場で住所不明のなかから数名の確認が出来たのはせめても幸であった。

物故者が卒業生全員中、二十有余名おられ一同黙祷を捧げた。あと互いに健康に充分気をつけるべく、励ましあった。

席上会の名前を決めようという事になり、案を出したが、次回の開催予定日（今年十一月）に決定することにした。

次回の幹事は柳沢義祝、市川司金子寿夫に決定したが、会員が出席されることを祈って止まない次第である。

なお当日は、矢島同窓会関東支部副支部長よりビールを御寄贈いただき、一同感激のうちに乾杯をした。紙上をかりて厚く御礼申上げます。

出席者名は左の諸賢である。

相沢忠一、飯島俊一、池内省三、市川司、日田今朝雄、春日敦美、神林常視、今子寿夫、工藤忠房、小山邦朋、塩沢昭一、清水克彦、瀧沢敦美、掛川暉夫、児玉和己、春原新作、別府茂、吉田和之、中島正夫、広瀬洋、志摩陽伍、長谷川潔、柳沢義祝、横田亮一、米津幸男、若林進、寺沢浩。

なお住所不明中として数名を記したが、関東在住と思われる左の諸君の住所等を御存知の向は、幹事までお知らせ願いたい。

松尾昭、林定幸、清水卷郎、有賀浩

上田を中心に同級会が開催されておるが、関東もゆくゆく上田地区でも連絡をとって、卒業生全員の友情が再現出来れば望外の喜びである。（（46期・瀧沢敦美記）

孫の自慢に花が咲く

＝上中三一会在京クラス会

都会の街々では桜の便りと知事選の宣伝がようやく賑やかになってきた四月四日に在京の上中三一会同級会が開かれた。いつもながらリード役の矢島五郎君の肝いりで信州ゆかりの池袋八峰閣に上田より特別出席の小山一平参議院議員をはじめ在京11名の諸氏が参集した。春休みの関係もあってか染谷卒の御婦人方の参加がなく一寸と淋しい感もしたが、期せずして上中のみの三一会となった。出席のメンバーは例によっていつもの常連の顔ぶれであったが、今回はじめての出席である上田出身金井鉱二郎君を迎え同君をかこんで話は一段とはずんだ。何しろ十代の上中ドテガラスの紅顔可れんのイメージから一足とびに60才の爽ぼうを目の前にしては互に顔を見合って頭をかしげたが、それはやはり上中五年間の仲間である。たちまち話は通じてうちとけ、中学の思い出やら戦後の生活やらに話がはずむ。通知はその都度とどいていたということで、口の悪い連中から「よく今まで我慢して出てこなかったナー」などのユーモアがとび出して大笑い。小山一平君は例によって気さくな話しで一同関心をあつめる。益々元気な彼の活躍ぶりは三一会一同大いに元気づけられる。酒杯を重ねるにつれて話題百出。孫の話も出るような年輩では、別な方の元気もさることながら健康法の話が多くなる。常連の柳、和田、柳沢の諸氏は病後養生中で欠席は残念だが、同君ならずとも人間60才ともなれば無病息災などはいえなくなる。一病二病息災である。病気と仲なおりして健康を回復されるよう祈るや切。それぞれの近況を自己紹介でまた歓談。時間の経つのを忘れる。地方選挙も間近い郷里の同窓生にも思いをはせながら次回の盛会を期して乾杯し閉会。閉会後もなお話はつきず、有志で下のバーに席を移しての歓談はいつ終るとも知れない楽しい雰囲気の会合であった。

出席者は次の十二名。

小山一平、沢田光雄、玉井康彦、土屋学、小宮山庄三、小山豊、金井鉱二郎、加藤三郎、宮坂三吉、矢島五郎、宇野重徳、宮入秀夫

（三一）宮入秀夫記

追記

四月十三日、長野県会議員選に工藤俊武君が、四月二七日、上田市会議員選に竹内正君がそれぞれ当選した。

四月四日の在京上中三一会で両君に「よせがき」を送って激れいしたことが、我々の心を更によろこばせてくれた。

両君の活躍を祈るとともに、同期三一会諸兄に、このよろこびをお知らせする。そのうちに、小山一平君の当選も祝して、同期生三名の祝賀の宴を在郷、在京合同でふるさとで開催するべく、在郷の松島、山寺君等と打合中である。

そんときは、在京のわんだれ、ぜひ都合つけて行ってくれ。

眼に見えぬ建物の腐朽

まず防腐剤の塗布から

住宅のうち、所謂るマイホームがそれ以外の建物と大きく異る点の一つに所有者と使用者とが同一であるという点が挙げられる。一般事務所その他各種建物でも、それが個人企業の場合は住宅と同様に同一人の場合もある。併しその場合でも、建物を使う多数の社員は所有者ではない、そこにその建物の使われ方にマイホームとの差が出てくる。

吾々が通常職場としているオフィスビルにしても、仮令それが自社ビルであっても、直接自分が所有している訳ではないから、例えばペンキが剝げていて鉄部の錆が出ていても、それを見た時は「見苦しいなあ」とは思うが、唯それだけの話でそれ以上特に向うという事もない。所詮俺には関係ない事と片付けてしまう。それに対して我が家の場合は事情が大分違う。手摺の錆がだんだん酷くなってくれば「これは放っておいてはまずい、全体を取替える様な事になっては大変、今のうちにペンキを塗直しておかなくては…」と考える様になる。建物の使われ方のこの違い、建物にとってどちらが良いかは改めて言う迄もなかろう。

この様に眼に見える場所の傷みは誰にでもすぐ判り、処理する事ができるから問題はない。これ迄に対してどうすれば絶対大丈夫という対策の決定版というものは予算を気にしなければ無い訳ではない。併し現実の問題としては仲々実行されにくい。そこでまずまずの方法として以下述べる様な対策が有るのでそれを紹介する次第。

土台だけでなく、柱も間柱も下から五〇糎位迄の高さの部分に防腐剤を十分に塗布する事がその一つ。（一回サッと塗った丈では不十分）。次にモルタルの下地に張られてある黒い紙、実はこの黒い紙が曲せ者である。これは通常アスファルトフェルトと言う防水用のシートであるが、酷い場合にはターフェルトと言って防水には余り役立たない代物を唯お体裁に使っている場合もある。何れも黒色のシートであるから、実物を良く知っていないと区別がつきにくい。そこで防水性を更に高める為にもアスファルトルーフィングを使用する事をおすすめする。これは黒色ではなく、若干黄色を帯びた灰色をしているから一般の人でもすぐ見分けがつく。但しアスファルトフェルトより値段が若干高いので、壁面全体に張ると工事費がその分だけ高くなるので、前記の防腐剤を塗布した部分に使用するだけでも宜しい。これなら工事費の値上りは微々たるものであるが木部の腐蝕は可成り防止される事になる。

（35期　石倉謙一）

小料理
味　川
（36期の巣）
東京都港区新橋3—17—2
中条ビル2階
（新橋駅鳥森口から徒歩1分）
電　話　436—6563

日本の伝統文化を守る
神野文芸学園
学園長　神野勝男（36期）
船橋市前原西2—32—15
電　話　0474—74—0543

誠心塾
能率的学習指導
進学指導・教育相談
塾長　飯島俊一（46期）
（真田町傍陽出身）
川口市大字芝953
TEL　川口0482—66—1376

甲子園を長野師範と

小川大先輩にきく
上中野球部の草創期

上中野球部の大先輩小川栄一氏（十八期）にお話を承わることは二、三年前からの念願でした。四月十八日に会社でお会い下さると秘書から連絡があったと、馬場先輩から電話があった時は、母校の大先輩でもあり初対面でかってテレビでお顔を拝見した事があったが、古武士の面影がありオッカナイ人だとの印象が強かったので、馬場先輩の随伴で行くとは申せ緊張しておりましたが、気楽にお話下されホッとした次第です。以下は先輩のお話です。（25期・馬場長一、32期・中村礼三）

「何しろ、君ィ、六十年も昔の事だよ、余り覚えていないんだなァ。僕が三年生のとき渡辺って野球に熱心な商船学校出の先生がいてネあるとき先生が野球を強くするにはどうしたらいいかって聞くから三年計画で、要するに選手の寿命を長くすることが野球を強くする第一条件だっていったことがあるんだよ。そんなことで僕がマネジャーをやったとき井源太夫ってのが投手で三年生だったよ。

大井ってのは、馬場三子男氏がマネジャーのとき、小諸から上中の二年生に入ってきたんだ。ウン。小諸の実業学校から来たのかな。つまり引っ張ったんだよ。君ィ。その頃のマネジャーっていうのは、今のマネジャーみたいに恰好よくないんだナァ。井戸水を汲んだり、線を引いたり、道具の仕末をしたり体のいい小使だよ。当時のメンバーかい。ウン、思い出せねェナァ。そうだ。稲葉功太郎ってのがいたよ。ナニ。井上……。井上ってえのは知らないが、稲葉ってえのがいてネェ。これが料理屋の息子なんだが、彼の家は野球をやるのが大反対で、家の者にかくれて野球をやっていたんだよ。その中に選手が揃ってきて当時長野県では長野師範が強くってこれを負かすには合宿して猛練習しようってことになって寄宿舎に合宿したんだ。野球で合宿したのはこれが最初じゃないのかネ。合宿してもロクな物食えねェから、栄養失調になっちゃいけねェてんで、この稲葉がこっそり家から料理をつくって持ってくるんだよ。そうこうしている中に甲子園へ出場出来るのは師範が上中かって評判になってから、稲葉の一家、使用人まで動員して応援に来るようになって、最後には一番のシンパになったんだナァ。そして師範とは一回戦で当って確か一点差で負けたんだ。当時のことは遠藤又介君が生きていたらよく覚えていると思うんだがネ。井出俊一、中村半輔稲、葉君も皆んな死んじゃったのかい。残念だネ……。

何しろ上中、水戸、京都の交友関係がありすぎるんだなァ。今だって従業員が二万人以上もいるんだから昔の事も覚えていられねエんだよ。アー、松尾城頭青嵐って歌かい。アレは僕が作ったんだよ県の大会に出る前に何か応援歌がなくっちゃまづいっていうんで、あれは三〇分か一時間位で作ったんだよ。歌は出来たんだが、丁度夏休みに入って歌うヤツがいないんだよ。そこで千曲川で水泳やっているヤツを集めようと人力車で河原に行って丸裸で泳いでいるのを集めて歌を教えて再び校庭に皆んなを集め本格的に練習したんだよ。今でも歌っているのかい。これが上田の歌かい。どれも作者の名前がのっていないねェ。判っているのなら凱歌にしろ何んにしろ作者を書いておく方がいいんじゃないのかね。

そうだ、慶応の選手が試合に来たことがあったっけ。二軍の選手だったと思ったんだが、大井の球が打てなくて最初上中がリードしてたんだよ。大学生が中学生にヒネられたんじゃ沾券にかかわると目の色を変えてかかって来て、最後には逆転されて負けたと思ったよ。軽井沢で外人チームと野球をやったっていう記憶はないねェ。上田が代々慶応の選手がコーチに来たのは桜井弥一郎、宮原清さんの影響だよ。桜井弥一郎さんのお母さんと僕の母とは従姉妹同志でよく桜井さんのことは知っているんだ。僕は水戸の第一回生で上級生がいないんだ。そこで野球部を作って僕が投手をやったんだよ。ところが一回も勝てないんだ。一回も勝てないんだから僕はやめるといったら君にやめられると困る、君に野球部の全権をまかすから殺え直してくれってことになってねェ、選手をやるってことは窮極のところ節制するってことにつきるんだナ。そこで頑張ったサ。二高との対抗試合があったとき、一番弱い野球が最初に勝って、大いに意気が上って全競技、勝ちをさらったって事があったよ。

何しろはるか昔のことで今じゃすっかりコロケちゃってあんまり役に立ちそうもないネェ」

大分予定の時間を超過して、もう次の来客が待っている様子、昨年出版された「あわてなさんな」にサインして載き、また記念撮影をしたのですが、残念ながら失敗に終りました。お年とは見えぬ若さでお元気でした。どうぞより一層の御自愛を祈りまして辞去いたしました。

奈雲先生の詩集「天爵」出版さる

恩師・奈雲行夫（号天風）先生が、このたび教職生活四十年を記して、歌集を出版なさることになりました。

長い教職生活を通して詠みつづけられた作品一、〇二四首がおさめられております。

内容は〈第一部〉〈第二部〉〈第三部〉〈天爵〉よりなっていますが、われわれにとってもっとも興味深いのは、第一部であるのは当然のこと。

直接、先生に教えをうけた人はもちろん、上中のOBには、ぜひ一読をおすすめしたい本です。

希望者は関東支部長・大森まで（B5判二七〇頁、短歌新聞社刊）

一線に立つ27名！
51期の集い盛会

昭和二十八年三月卒業の51回生四百名中、関東地方在住同期生は約百三十名、クラス単位の集りはしばしば持たれて来たが、同期生全体の会合は未だ持たれた事がなかった。近年多くの同期生から是非全体の会を開くよう呼びかけてほしいとの声がもりあがり、去る五月二十四日、池袋の八峰閣で、「上田高51期生の集い」を開催した。土曜日の事でもあり出足はどうかと幹事の飯塚君と思案しながら五時からロビーで待機していたが十五分すぎに一番乗りの浅野井君を筆頭に続々とつめかけ、卒業以来初めてのなつかしい顔ぶれ同志もあり、あっという間にロビーは話しのうずにつつまれた。招集時間の五時半には恩師の岩下美千穂先生、竹内敬太郎先生がみえられ、開会予定の六時には二十七名の出席予定者中二十二名が勢揃い近来にない出足のよい会となった。飯塚君の開会の挨拶と小生の経過報告につづき、竹内先生の音頭で乾杯、ひきつづき岩下先生のご挨拶を受け、各自近況を語りながらの自己紹介に入った。寒中ばには田中訪中前から北京の特派員として活躍し今月初め帰国した中島君、TBSニュースコープを担当している井出君が、本番を終えかけつけ七時半頃には予定者全員の顔が揃った。皆それぞれ座を移り、つもる思い出や近況を語り合い時のたつのも忘れ、杯を交し合った。

宴もたけなわとなると皆、誰からともなく「信濃の国」「校歌」「凱歌」と声高らかに合唱し、卒業後二十年余のブランクはすっかりうめつくされた。

最後に衆議一決、この会を機に51期の集いを毎年続ける事にし、新たに幹事四名、飯塚寿、浅野井哲、柳沢暁、村田寛を決め、先づ名簿の作成、会名を近日中に竹内先生に命名してもらう事とした。

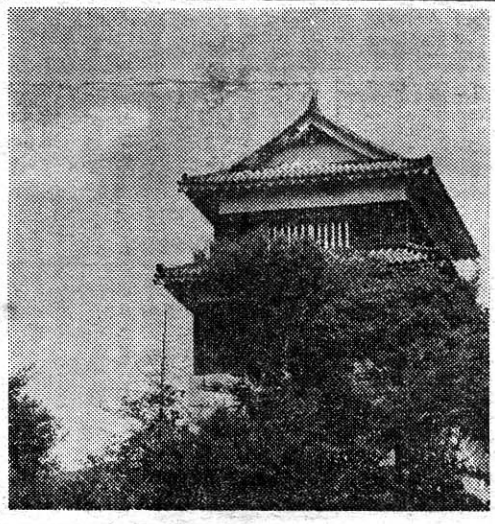
九時半、鎌野君の発声で万を行い、再会を約しある者は家路にまたある者は二次会にと散った。

参加者は次の通り。

市川慶伍、山本愛久、上原昂、中島宏、白田稔、成沢誠司、竜野勇介、岡田弘、飯塚寿、村田寛、鎌野秀嗣、小胎治雄、小林敬三、丸山瑛一、武井厚、山崖禄生、竹内英男、早川正範、石川泉、柳沢暁、浅野井哲、山浦誠、保坂利勝、井出英三郎、堀内照雄、上原隆雄、永野昭治、及び岩下、竹内両先生

（51期・村田寛）

60期の諸君ヤーイ！
同窓会で新しい世界をひらこう



本紙、それもとくにこの四、五面を見て、いつも思うのだが、同期会の〝自慢話〟は、ほとんどが30期、40期までの先輩たちに限られているようである。

60期以降の諸君の話はあまりきかないわけだが、それは、この世代が、年代的に公私とも一番忙しい時だからと思う。

とくに、われわれ60期ともなると、齢三十一、社会的にも、実戦の面で最前線に立って活躍している者ばかり……。とてもじゃないが、同期会、同窓会などには、という毎日だろうと思う。

かくいう私も、実は、本紙の存在を知ったのは、つい最近のこと。連絡（？）とある先輩につかまって、会報編集を手伝わされることになったのだが、結構愉しいものである。

なによりも「わんだれ」や「そうずら」等の、昔なつかしき上田弁の聞けるのが嬉しい。

それに、何かというと、すぐ、ソメヤである（50歳、60歳の先輩たちがですよ）。

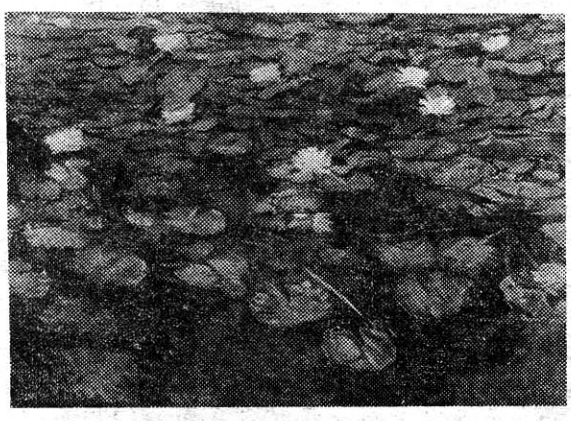
まあ、決してムリをしてまで、義理立てする必要はないけれどもなんとなく、世の中に退屈したら一度、支部の方に顔を出したら、いかがだろう。損得はともかく、きっと、新しい世界が展けるはずだから。（60期＝昭和四十三年卒六組　小林秀芳）

50年度総会開催せまる

本部同窓会の総会が来る六月七日（土）午後二時より同窓会館において開催される。今回は同窓会創立五十周年の祝賀会と併せて同窓会の功労者の表彰と受賞者の祝賀会を行う予定である。

関東支部では大森支部長、島田相談役ほか役員等数名が参加する予定であるが、一般会員も多数出席してもらいたい。

萩原実先生の「睡蓮」
関東支部から本部へ



萩原夫人の好意により、本部へ寄贈されることになった「睡蓮」

萩原実先生は、戦前母校において水彩画の教師として十年前後、教鞭をとられ、「モルモット」のニックネームで生徒から敬愛されていたことは未だ記憶も新しい。

先生は私達の母校上田中学を退職後東京の上野高女に在職されると共に引続き、好きな画の制作に没頭されて水彩画界では重鎮として知られ、斯界の雄である一水会会員の最古参として美術年鑑等でもてはやされておられた。

偶々、数年前に病を得てこの世を去られたが、その画壇に残された功績はサンとして輝き、不滅の灯として永く後世にその偉業は伝えられるであろうと思われる。

昨年、未亡人を小平市萩山の寓居に訪ねた副幹事長の小林が、先生の作品を由緒ある上田の図書館に寄附される旨をお聞きして、どうぜ寄附されるならばかって教鞭をとられた上田高校の同窓会本部に御寄附願い度き趣を申しげた処、快諾なされると共に、寄附者名は世話になった関東支部名にして下さいとの申し出を受けた。

但し額縁代と運賃は関東支部にて負担して欲しいとの御話に小林幹事は早速矢島副支部長と協議して本部側の意向を柳沢文秋会長に昨年秋、尋ねた処、喜んで受入る旨の回答があったので、直ちに未亡人に伝えて鋭意実現方を計って今日に至ったのである。

勿論、幹事会にも再三付議し、全員の賛成を得て、最近に於て、額縁七万円の支出と共に額縁も立派に完成し、同窓会本部へ運ばれる日を心待ちにしている昨今である。近く開かれる関東支部大会の会場に、作品を展示し、関東支部の諸兄に親しく観賞して戴くことになっているが、吾が子の首途にも似てその日を未亡人は心待ちにしておられる。

因に、同作品は第九回日展入選作品「睡蓮」にて六十号の大作であり、時価数百万円に上る価値を有するものと思われる。

玆に改めて、故萩原実先生の御冥福を祈ると共に、さく未亡人の御好意に対し衷心より謝意を表すると共に、その御多幸を心からお祈りする次第である。

（40期・小林郷司記）

郷土の味を贈りましょう
信州味噌
極醸
山吹
信州味噌株式会社
本社／東京都新宿区下落合1―523
工場／長野県小諸市甲2905

小さな店です
店の小さい事は恥しいとは思いません
誠実、思いやりの少い事は恥かしい事だと思います
酒類・煙草・食料品・調味品
銘柄も品数も少いかも知れませんが
あたゝかい人間味で溢れさせたいのです
ビールは一つの銘柄
アサヒビールに情熱のすべてを傾けたいのです
大変な事です　大変な事だからやりたいのです
思う事はたやすい事です
行う事は難しい事です
はげまし、叱り、そして後押しをたのみます
〒160　東京都新宿区四谷二の九　田中ビル
山吹（みそ）／アサヒビール　専売店
株式会社　信州屋
TEL　三五七―五〇一五
三十六期　伊藤東四次郎（としじろう）

原嶋貴石株式会社
取締役社長　原嶋佐吉
本社　東京都新宿区三栄町7番地（原嶋ビル）
電話（357）8861（代）～1
（359）3414（夜間専用）
工場　東京都東村山市秋津町2-1184
大阪支店　大阪市南区鰻谷仲之町26（東心斉橋ビル）
新宿・京王百貨店　柏・高島屋
上野・京成百貨店　玉川・高島屋
大宮・高島屋　池袋・西武百貨店
東京・高島屋　渋谷・西武百貨店
横浜・高島屋

ゴルフは自然と

エチケットを守った上で

旧臘中、上田高校同窓会関東支部会報第十二号のご恵送を戴き、たいへん懐しく通読いたし、色々追憶や感想が、次から次へと湧くのであったが、時代の変遷を最も強く感ぜしめたものは、会報に掲げられた、橋本利政さんという方の筆になった『初心者のためのゴルフ』と題する文章であった。山国の高校同窓会報に、ゴルフの手引きの文章が掲げられたことは、最近のゴルフの流行を象徴するものと言えようか。

さて、十九世紀の末期一八九七年生まれの私は、今年七十八才になるが、生まれ故郷信州を離れてほぼ六十年にもなる。今の私には信州を語る資格はなさそうではあるが、少年時代の私の網膜に焼きついた〝風光明媚〟〝山紫水明〟などの形容詞のついた故山旧水のたたずまいは、老いてますます鮮明になってくる。

私のような老人をして、日本近代の世相の変遷を痛感せしめるものは、スポーツ各界の近況である。

年頭と言うことで、数日前の東京の諸新聞には、昨年中のスポーツ界の多額の収入者として、多くの選手の名前が報道された。野球ゴルフ、拳闘、競馬、競輪各界の一流プロ選手ともなれば、数千万から億を超える多額の収入を獲ているものが少なくないと言う。プロ野球選手の中には、世界中で三人目という高給取りの出現が報ぜられた外、高校を卒業した許りの十八才の少年が、五千万円の〝身代金〟でプロ球団に〝購われた〟と言う話など、折柄の経済不況風に身体を縮ませている一般庶民には、気の遠くなるような話ではある。

昭和のはじめ、全世界を襲った不景気風に打ちひしがれた日本の特に農村地帯には、その日の米塩の資を得るため、〝娘を売る〟という悲話が到る処で聞かそたことを、私はゆくりなくも、プロ野球選手の〝ドラフト制〟なるものによって、回想させられたものだ。

ゴルフ界について観ても、女子のプロゴルファーの中にさえ、昨年一年間の賞金だけで、数千万の収入を獲たものがあるなどの報道が、新聞のスポーツ欄ではなく、社会欄に掲げられたことは、それだけの理由があってのことだと思わせた。さてこそ、山だらけの小さい島々の日本列島に、ゴルフ場の数が、計画中および建設中のものを加わえれば、二千ヶ所をはるかに超ゆるという、ブームを招いたことに相なったものであろう。ゴルフ場は、広いものになれば、数十ヘクタールにも達する比較的平坦な土地を必要とするだろう。二千ケ所以上のゴルフ場の土地を合計すれば、けだし大変広大な沃野や、森林を潰した事になろう。

ところで、ゴルフという遊技は何国から始まったものかとの問に対しては、あるいはイギリスといい、またあるいは否オランダの方が先だと反駁する向もある。何れにしても、本国の国土は狭隘であっても、海外にべらぼうに広大な植民地を領有していた、植民地帝国の何れかから始まったものであることには間違いない。

イギリス帝国など、その本国は小さい島々の寄せ集めである。オランダに至っては、別名ネザーランドという通り、その北海に臨む沿海地方の多くは、海面より低い地域から成っている。イギリス貴族の多くは、海外の植民地で掠め奪った資産で、狭い母国の中でも森林あり、池あり、谷川ありというような、広大な土地を私有してその中で、孤狩りを楽しんだり、広い遊技場を設けて、ゴルフを遊ぶなどして、徒食を続けて来たものだ。オランダの世襲の富豪なども、大同小異の生活振りであったらしい。

広々とした自邸内の草原で、独りで小さい白球を打ちながら、クラブ入りの袋を抱えたボーイを伴供に伴れて歩くというスポーツは如何にもイギリス人好みの優雅な貴族趣味に合ったもので、自然にそれが貴族のステータス・シンボルの如く観られたので、その遊技には当然やかましいエチケットが云々されて来たのだ。従って、ヨーロッパ諸国の一般庶民は、そのような貴族的遊技に手を出すことを潔しとしなかった。

然るに、そのような強大な植民地帝国も、第二次世界戦争の結果広大な植民地をすべて失うこととなり、彼らの母国は、経済的自立が至難なほど、惨たる悲境に堕ちてしまった。彼らの今日の姿は、過去長い間植民地で苛酷な収奪を続けて来た彼らをうらむ、旧植民地の怨霊に苦しめられている苦悩の姿なのだ。ゴルフどころの話ではないではないか。

ゴルフが北アメリカに渡って以来流石の貴族の遊技もすっかり大衆化され、それが更にアメリカから日本に輸入されるに及んで、著しく堕落し、この山だらけの小さい列島に、一千余りのゴルフ場が出現するという、神をおそれない乱暴さには、大きいことに驚かないアメリカ人も、少々気になるのか、米軍基地の多い日本国内に、十ヶ所に上るアメリカ軍人専用のゴルフ場の存在する事実が、米人識者の論議の種になっているとのニュースもある。

以上の様に申しても私はゴルフを排斥したり、ゴルフに興ずる日本人を軽蔑したりしている訳では決してない。唯、エチケットの非常にやかましいゴルフを遊ぶ日本人の中に、エチケットを無視したり、外国へ行ってまでゴルフ場で外国人の物笑いにされるものが少なくないなどと言われている点をこの拙文の中で取り上げたいと思ったまでである。

戦後、日本経済の高度成長ぶりが世間の話題となった頃から、外国へ観光旅行に出かける日本人団体が激増して来た模様だがその様な団体旅行に参加する日本人の中には、諸外国の観光地で、赤毛布ぶりを発揮しつつ、胴巻きの札束に、物を言わせようとするものが少なくない状況を、しばしば聞くことがあった。然し、赤毛布ぶりと申しても、何も日本の特産とは限らない。北米大陸の中西部、コーン・ベルト辺りのお百姓さんの農閑期にニューヨークやシカゴなど大都会の見物に出掛ける連中の間には、矢張り赤毛布ぶりを発揮する手合いも無いとは言えない。だが彼らは、他人に迷惑をかけない節度だけは心得ているようだ。

ところが、日本人の赤毛布にはおのれの言動が、公衆にどのような反応を与えるかと言うことへの反省が欠けているらしい。また、殊更赤毛布ぶりを露出することで自分のテレクササを紛らそうとする、日本人によくある偽悪症を示するものがあることも事実のようだ。そのような傾向は、特に東南アジア地方の如き発展途上国などへ旅行する団体の中に、顕著のものがあるらしい。

多聞に洩れず、信州でも到るところにゴルフ場ができており、現に沃野をつぶし、美林を伐採してゴルフ場を建設中のところもある。先般南信大竜峡のどこかで、ゴルフ場建設中のブルドーザーの丘削りが、土砂崩れを起こし、数人の死傷者を出したとのニュースは、まだ大方の記憶に新しいところであろう。

信州の山河は、誤った開発促進策のため、いたるところの山腹に醜い岩肌を露出し、美しかった河川や沼湖が、甚しく汚濁し、メタンガスを発生している場所さえある。

私は、田舎の山径や、田甫の間を散歩することが好きで、長野に七年間仮寓する間、毎日のように善光寺の裏山や、郊外浅川のほとりのリンゴ畑や稲田の辺りを歩き回ったものだ。然し、僅か七年の間にも、地方都邑の周辺は急激にその容相を変えて来た。山裾に古雅なわら屋根の姿を見せていた農家が、何時の間にか、アルミ・サッシで護られた合成建材の今様流行の住宅に変っている。一体野良仕事から帰って来たで主人は、泥だらけの地下足袋を何所で脱ぐのであろうか。かって黄金の穂波を打っていた曠漠な田甫の間いたるところに、休耕田と称する雑草の猛然たる勢で繁茂しているジャングルが出現している。昔、雑肥の香をかぎ、土をなめるようにして、家伝の至宝のように田畑をいつくしみ育てて来た古老が、上述のように変った田園の景観を目にしたら、天を仰いで慟哭するだろう。昔、流れの清浄であった千曲川のほとりに生れ育った私も、『農家美装して、田園荒廃す』といった姿には我慢が出来ず、遂に、千曲の山の中の、全くの田舎に移転して来た。

私たちが長く親しみ、いつくしんで来た信州の山河は、今死に瀕しつつある。信州は日本列島の根幹、本州のほぼ中央に位置しているが、その信州が荒廃すれば、本州全体の衰亡を誘発し、遂には日本列島そのものが枯死することになるだろう。ある作家は すでに『日本列島沈没』とかいう本を出している。

私は先年、同窓会報の紙面をかりて、信州の自然が『開発』という魔もののために、急激に荒廃を進めている状況について、敬愛する同窓会員諸氏に訴えたことがあった。今また筆を向して、この様な拙文を綴ったのは、更に荒廃の速度を早めつつある故山の現況について、重ねて同憂の士に訴えんと欲したまでで、決してゴルフ愛好者やゴルフそのものを批判するなどの、野暮を申す訳ではありませんので、その点どうか誤解のないようにお願いしておきます。

（昭和五〇年の年頭に当って）

（14）天田六郎

四八ゴルフ会

親しみ競う

四八ゴルフ会がはじまってから3年経つ。親睦を深め、なおかつ腕を競い合おうとはじめられ、会則もルールもでき、今では登録者が20名をこえ、毎回の参加者も十数名を数える。第9回コンペが6月19日に行なわれる。

第一回の参加者。左から堀内、赤羽、小林、牧内、山崎、篠原の腕自慢たち？

わんだれスキー

大いに滑べる

服装はプロなみの参加者一同（蓼平スキー場で）

私は一冬に三回程度スキーに行くが、ワンダレ会のスキー学校の日程に合わせて計画を立て、楽しみにしている。大勢の参加者、家族的な雰囲気が一人者の私の心にピッタリなのである。また、このスキー学校には異色なところがある。それは、滑るよりも、雪景色を眺めながらお座敷スキーなんてしゃれこむ人が、二、三人いるからである。私もお座敷スキー党であったが、今回は滑るスキーに徹しようと思って参加したが、結局スッコケてしまった。

スッコケた目にうつったスキー学校の様子をご紹介したい。

三月一日、午後六時半、川口の矢島鋳工に集合、上田電鉄バスに乗り一路蓼平へと向う。まずは神野先生、矢島先生の挨拶があったのち、自己紹介に入った。私の番がきた時すでに酒は入っているしヤジは飛ばし、また、このヤジが私を全部紹介してしまうものだから、立往生してしまった。神野先生からは、一オクターブ下がった声で怒鳴られ、ヤジは飛んでくるわで、困り果てると、堀内先輩が、「熊谷を過ぎてから先、私が用を足したくなり、高崎を過ぎてバスを止めたのは憶えているが、後は寝ていたらしく、気がついた時は蓼平に着いていた。午前零時近くの到着である。野明山荘に入ってから西部屋に別れて寝る。私の部屋は、うわばみが揃ったとみえ、酒宴を開き、寝たのは午前一時半過ぎだった。

二日の朝、あまりの寒さに目を覚ます。最後に起きた矢島先生は「のどが渇いた」と一言。さっそく私がビールを仕入れに行く。しかし、早すぎて売店が開いていない。部屋に戻ると、先輩方いわく「たたき起して買ってこい」と。無茶なご命令。しかたがないから食堂で五分ぐらい過し部屋に戻るまた怒鳴られて部屋を追い出される。三回ばかり繰し返し、やっとビールが手に入る。大きな笑声に怪げんな顔で部屋に入ると、まだ大笑い。「口笛吹きながら帰って来るので、こんど手に入ったんだろう」と話し、笑ったんだとか。怒鳴られっぱなしの私にとって、笑えた話しではない。

朝食後、八時にゲレンデに出て全員で記念写真を撮る。矢島先生は初心者を集め、指導にあたり、他の人は、三班ぐらいに別れて滑る。

林先輩は、ゲレンデに出る時はスキーをはいていたが、いつのまにかスキーをやめ、ゲレンデの下から濁り酒二本、肩にかついで二コニコしながら登ってきた。一度も滑らずお座敷スキーに徹したようである。

神野先生、山の神をしどく。先生いわく。「下手くそでダメだ」山の神いわく。「すぐ怒鳴るだから」私は昨日から怒鳴られっぱなし。しかし、顔は口ほどでなく楽しそうでした。

三日は全員が裏ダボスで滑る。今日も、矢島先生は初心者のお相手、大きな声を出しすぎたようで帰りのバスの中では無声音ばかり発していた。

堀内先輩は、若い者を引き連れ先頭に立って滑っており、石倉先輩は、一人で孤独を楽しむかのように滑っていた。

最後に全員でシュナイダーを滑り降りたが、神野先輩の子供、兄妹が降りてこない。兄が滑れない妹を心配して、コーチしながら降りていて、下から見ていてほほ笑ましかった。

今回のスキー学校は、故障者を一名出し残念であったが、その他は、天候にも恵まれ、楽しいスキー旅行があった。（63）三井恭司

同窓会報は 原点に戻れ

ゴルフ記事をみて、腑に落ちない、ヒッかかる感じがしたので一筆。私達が同窓会報に期待し、会費を払うのは一体何なのか。マサカ「ゴルフ」を指導してもらうためではあるまい。美しいゴルフ雑誌も、たくさん出ている。テレビ番組にも、毎日のように登場している。まさにゴルフ情報は洪水のよう。今さら同窓会報上で、ゴルフの手ほどきでもあるまい。

第一、同窓の方々の中にも、既に相当のキャリアの方々がたくさんいらっしゃる。スタンスだの、グリップだの失礼千万。

「何もそんなに目クジラ立てなくても……ゴルフもいいではないか」といったモノワカリのいい方も、いらっしゃるかもしれない。

しかし、無定見、無原則は困るのです。

もちろん、いろいろな考え方、様々な行動様式があってよいと思います。趣味も好みもみな違う。

このような多様化社会の中で、私達同窓生の共通する意識とは何か。それはなつかしさの一語につきる。再び帰らざる青春を、同じ学舎で過ごした、あの共通体験。「ふるさとの山はありがたきかな」のあの情緒の世界だ。

夕陽が千曲の水面に赫々と輝くあの燃えるような情念。感傷であってよい。郷愁であってよい。熟情であってもよい。

「誰が故郷を、思わざる」である。

そのためにこそ、千円の会費を惜しいとは思わないのだ。

ああ、それなのに、ゴルフ指導とはこれ何如に。

折角記事を載せて下さった編集者に文句を言うつもりはない。特に橋本さんは私の同期、ケチをつける意図は毛頭ない。

ゴルフ愛好グループが、同窓生の中に組織されて、その動静をレポートするなら、これはまた結構なことで、何も異論がない。

どなたか、私の意見に、反論していただきたいと思います。

（33）矢島力夫

ぷろ養成用
れたりんぐ教室
条件　1．満25才以下
2．毎日1時間以上自宅練習ノ出来ル者
内容　1．毎週 木曜日 夜7時ヨリ
2．数人ノミノ徹底シタ個人指導
3．素質ヨリヤルキガアレバ短期間デ必ラズプロニイタシマス
看板及ビ回転装置
PAT8件（含申請中）
コミー工芸株式会社
小宮山　栄
（小諸市出身　56期35才）
会社　駒込駅　歩イテ1分（910）8890
自宅　巌　駅　歩イテ8分0484（44）4838

NIGHT and DAY（昼・夜）
むせびなく様なピアノの調べにふと、われを忘れる時
もうひとつの世界があなたをつつむ……サクランボ
day-time 10：00 AM～6：00 PM　night-time 6：00PM～2：00AM
◇Key-Bottle
サントリーオールド　3500yen
Drink 女性半額
（6：00～10：00 PM）
MENW
Coffee 200yen
Tea 200yen
Cola 250yen
Scotch 500yen
Beer 300yen
サクランボ
カフェテラス
渋谷パルコ前・ミツミネ地下
TEL（461）0296 瀬間（上田市出身）

わんだれかい
王陀礼会
ふるさとの方言
浅間が、千曲が
よみがえる。
たまには きてみれや
例会　毎月第一水曜日 6.30P.M.
会場　川口・関東支部事務局

初心者のためのゴルフ（三）

（33）　橋本利政

4　スイング

スイングとは、Ⓐバックスイング、Ⓑダウンスイング、Ⓒインパクト、Ⓓフォロースルーの一連の動作でボールを打つことである。

この動作は多くの練習を重ねることにより、一つのリズム、（流れ）を身につけることが、非常に大切なことである。どのクラブを用いても、常にこのリズムを崩さないで打てるようになればしめたものである。さてそのスイングとは……

Ⓐバックスイング。

最初に、クラブヘッドを直すぐに右肩方向にかつぎ上げるのではなく、なるべく低く、飛球線の後方に、真直ぐ一五㍍以上も引くようにして、徐々に引き上げる。これをテークアウェイといい、この際、アドレスの時に、肩と両腕で作られた三角形は、右前方四五度以上まで崩さないように気をつけること。さらにグリップが、右肩の高さまで上げられた時の左腕は真すぐにのばされ、右手の腕は、脇を軽くしめ、肘はまげられて地面を指す。一方、左肩は、グリップが右肩の高さに近づくころに回転が初められ、顎の下まで充分にまわし込むようにする。肩の回転を始めるときに注意しなければならないことは、腰を回すのではなく、背骨を中心にしてねじるように、左肩を顎の下にもってくることである。これにより、腰は右方にねじられ、左脚は自然に内側にまげられる。スエーはなくなり、体重は右足内側にかかる。この一連の動作により、クラブは充分に右肩の上まで振り上げられ、両手首がコック（軽く）することになり、シャフトは、頭の後方で概ね水平となる。これをトップオブスイングという。

Ⓑダウンスイング。（絵図四）

ダウンスイングのはじまりは、腰と膝からはじまる。バックスイングで作られた膝と腰のねじれをすばやく左へ水平に移動しつつ戻し、体重を左足に移す。（この時に注意することは、左腰を左後方に引かぬこと、両脚はまげたままで、特に左脚膝頭を左脚つま先の方向に押し出すよう移動する。体重を左脚にうつすための最もわかり易い動作と思う）。さて体重の移動が開始されると同時に、まわされた肩と振り上げられた腕は振りもどされ、クラブヘッドはボールに正しくインパクトされる。この時に大切なことは、アドレスで作られた三角形は正確に戻さなければならないことである。これにより、強く速いボールが打ち出され、正確により遠くに飛ぶことになる。いうまでもなく、頭の位置は、バックスイングからインパクト、そしてフォロースルーの途中位まで、絶対に動かしてはならない。今までのことをまとめて云えば、ダウンスイングからインパクトへの体の動きは、腰から始まり膝、肘、肩と移動され、一番おくれて、腕とグリップが体の正面に戻ってくることが理想である。

このフィーリングを充分な練習を重ねることによって、体に覚えさせることである。

Ⓒ　インパクト。（絵図五）

ダウンスイングのはじめに、体重を充分に左足に移しながらの一連の動作によりインパクトするがこの時、グリップはでく自然に握りしめられ、両腕は真直ぐ伸び、左手の甲と右手の平は飛球線をさしている。即ちアドレスの時に作られた三角形はインパクトで再現され、フォロースルーの後半まで保たれるようになればよい。（この時初心者の犯しやすい点はトップでコックされた手首や右肘が、まげられたままインパクトされることである）。スナップのきいたインパクトは、ボールに強い反発力を与え、より遠くに飛ぶ原動力となる。ここで膝の動きについて二～三注意点をあげると、第一に膝はどのクラブの場合でも、軽くまげられてスタンスをとる。この膝はフォロースルーの後半まで伸ばさない。ダウンスイングのはじまりで、すでに右足先で蹴ったり脚を伸ばしてしまう人が多い。これはトップボールの原因となる。両膝はまげたまま移動し、体重を充分に左足にのせる。この要領は左膝頭を左足先にのせてやるような気持である。左腰を開かないための、重要なポイントである。第二は、ニィーアクションだが、正しい膝と腰の移動は、正確な飛球を生みだす重大な要素である。長いクラブを振るときは、誰でも割に腰の移動は行なわれるが、ショートアイアンになると、手打が多くなり、ダブッたり、トップしたりするが、これはニィーアクションの不足が原因である。

クラブの振幅にあわせたニィーアクションは、常に大切である。（USAのトム・ワイスコフの右足右膝の送り方は天下一品といわれ、流れるようなフォームから、常に正確な飛球を生みだしている）。

Ⓓ　フォロースルー。（絵図六）

インパクト後のスイングを、フォロースルーといい、できるだけ大きく振りぬくことが大切で、スイングを大きく見せると同時に、方向性と飛距離に影響をおよぼす。一般に、打球後すぐクラブを左肩の上に引き上げてしまう人を多く見かけるが、クラブヘッドは、出来るだけ長く飛球線に沿うように振りぬくことだ。このためには、何度も述べてきたように、両腕の三角形を長く保つようにすること右肩を顎の下まで充分に回しこむことである。フィニッシュが正しい姿勢で美しく保たれている時はきっとすばらしい球が飛んでいるはずである。逆にいえば、ナイスショットの時は、抵抗のない自然の美しいフィニッシュが保たれているものである。最後に一般的に犯しがちな欠点を掲げておくので矯正の指針となれば幸だ。

（1）体重移動のないスイングは、手打ちとなり、ダフリとなる。

（2）頭が動いたり、左肩の引上げや両膝の早い伸びは、トップとなる。

（3）手首がまがり両腕のまげたままのショットは、スライスとなる。

（4）右肩での強い打ちこみ（りきみ）は、フライとなる。

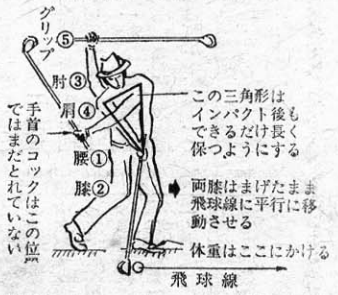
（5）両脇の締めがゆるいか、グリップの柔かい時は、ソケットとなる。

（6）ショートアイアンで、ニィーアクションが足りない時は、ひっかけ球となる。

（7）ショートアプローチは、クラブヘッドの重みで打つ。飛距離（ランを含めて）は、クラブの振幅の大小で決める。

（9）グリーンまわりのショートアプローチは、落下音を左の耳できけ。絶対に頭をあげるな。

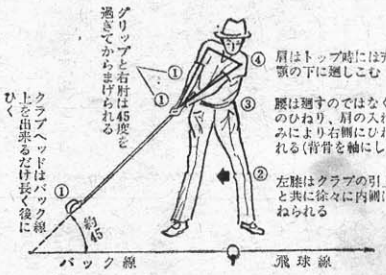
（5）パッティングのコツは、まず打距離を正確に（自由に）出せるようにすること。方向性はあとで間に合う。



絵図六　インパクト

数字はダウンスイングの移動順を示す

1．2．が最初3．4が少しおくれ5が一番あとから下りてくる



絵図四　バックスイング

数字はテークアウエイの概むねの始動順序

註　一応の順とはいえ、動作は流れであるから区切られた段階としては考えられない

絵図七　フォロースルー

絵図五　ダウンスイング

数字はダウンスイングの移動順序

原稿募集、広告募集、年会費納入について

原稿募集

一、内容　自由

一、原稿枚数　四百字詰原稿用紙三枚以内

一、締切日　昭和五十年九月末日

一、原稿送元　「川口市並木町二の十一の六　矢島鋳工㈱内上田高校同窓会　関東支部事務局宛」

広告募集

一、種類六千円　一万二千円

申込先「関東支部事務局」

◎会員の年会費の納入先

本会の会計事務は、末記会計において取扱っています。

◎年会費の納入方法について

（一）毎年春季（五月か六月）発行の会報を全会員に送るとき

（二）支部大会当日（毎年六月か七月）、その大会に御出席の方は、その会場の受付で、大会会費とは別に年会費を納入される場合もある。

（三）または、各期にはそれぞれ本会々計への払込票を同封し、その年の年会費をこの票によって、納入していただくことを原則としてます。

（二）支部大会当日（毎年六月）、その大会に御出席の方は、その会場の受付で、大会会費とは別に年会費を納入される場合もある。

（三）または、各期にはそれぞれ同期生の会合が年に一回か二回開催されている期もありますので、その会合で幹事の方が本会の年会費未納入者から預って、本会会計へ納めて下さる、という方法がとられてもいます。

いずれに致しましても、年会費の納入に御協力下さい。

（年会費は一、〇〇〇円です）

本会会計は（47）牧内操氏が会計の代表者となっています。

会計の取扱場所及び振替口座は、次の如く設定されています。

埼玉県川口市青木町二ノ二ノ七　牧内会計事務所上田高校同窓会

・関東支部

振替口座　長野一八一三三

『ずっこけ在校録』（2）

（32）　中村礼三

二年生になったとき担任が変って倉沢剛先生がオレ達のクラスへやってきた。よくは知らなかったが上中の先輩なのだそうだ。けどこれまた英語の先生なんだナア、くさることはなはだしいヤ。この分だと卒業するまで英語の先生と縁が切れねェのかと案じていたが本当に三年になったら、こんどは丸山ドント先生で、五年まで続けてオレの面倒を見てくれたんだから不思議だネ。さて倉沢先生になって又ピッグ先生の二の舞を演じてはと、一計を案じて、川辺先生の自宅へのりこんで、いい加減のことをならべたて、ケーキと紅茶をご馳走になって帰えってきたよ。何をしゃべったのか想い出せネエや。

同級生に芦田温って奴がいてネなんかの拍子で彼とつき合うようになったんだ。ヤツは産科婦人科医の伜で、入学式のとき見なかった顔だと思ったら、前からオレ達のクラスに鎮座していたという手合だ。芦田との付合は、オレには全く未知の経験で強烈な印象を与えたのだが、これは又の機会に書くことにするよ。書いたらオレの恋人に嫌われそうだからネ。

「オレ、チョンガー」。

芦田温君は僧まれっ子世に憚からないで気が付いたら、あの世へ直行してしまっていたよ。ナムアミダブツ。ナムアミダブツ。

あいつのことだから、案外、酒はうまいし娘ちゃんは奇麗だなんて、のたまわっているかも知れないネ。

低学年のときから卒業まで、オレには忘れられない男がいたよ。岩田光弘である。このダチは生涯忘れることが出来ない級友の一人である。ただ岩田光弘といったってすぐ思い出せないヤツもあろうが、応援団長の岩田といえば知らない奴はいない。又ペンネームの上田次郎といえば天下のNHKでも泣く子も黙る有名なご仁である。

この岩田も在校当時の成績は、オレとトントンイーヤンである。（岩田ゴメンヨ）。漢文の時間だったが、先生は鹿児島出身の隠元禅哉という少々出っ歯のヤサ男、その道で偉くなる奴はどっか違うんだなあと後で思ったが、オレは白けたね。けれど上田先生よ、その感激は今でもオレは覚えているぜ。

その学期は、それ一枚しか出さなかった。どうしてだって……？折角のイメージが毀れるからさ。嘘をつけ。出す気のねえくせに体裁のいいことぬかすな。馬鹿もんそれでも伊達先生、良い点くれたぜ。今この作品世に在りせば、棟方志功顔負けの傑作である。惜しい事したなあ。

この伊達先生、柔道三段、ガッシリした好男子だったが、オレ達が三年生になるとき、何処かの女学校へ、春とともに去っていった。

後に来たのが荻原なる先生。頭髪はチジレて、一見して画家らしい風貌だったが、関西なまりが奇妙に聞えて、たちまちついた仇名が「キナイロ」（後でモルモット）先生、覚えているだろう。忘れたヤツは思い出せよ。オレはキナイロ先生にも一学期一枚の鉄則を守っていた。一枚だから、その時の点数がそのまま成績表につけられる。だから真剣勝負だよ。然しもとと余り素質がないから大した点数を貰った覚えはない。でも四年生の時するけて、一枚の絵もかかず往生した事があった。仕方がないので校庭のガケ下におりて、公園に通ずる道の風景を、ヤケクソになって4Bで描きなぐったら、優の字が一つポツンと押してあったことがある。絵画の先生なんてえのは、どんな脳ミソのメカを持っているのか、不思議に思ったものである。こんな話は少しもオモロクないね。

皆んなも覚えがあるだろう。図画の時間といえば松平神社のダンゴだよ。あの懐しき串ダンゴである。オレ達ハミ出した奴は、公園の本丸までかけ足で参上。一気に土手をかけ上り、ダンゴをたらふく食って、といいたいが素寒貧同志だから、せいぜい一、二本だ。丁寧に食べたそのあと、名残り惜しげに串についているダンゴの肉をシャブって、それからペロペロと指についているアンコをなめてモソモソとポケットから小銭を出し合ったけなァ。オイ。

こんなことは優等生には関係ないけど、先生にヅケ口する奴は一人もいなかったネ。それから各自絵を描くべく散るのであるが、オレはいつも松平神社の裏手にある隅櫓のガケ縁に寝ころんで、遠く戦国の昔、真田幸村も猿飛佐助もこの一隅に傍んだことがあるのかと想像しながら、画用紙を顔の上にのせて、トロトロと仮眠をむさぼっていた。そしてガケ下の鉄道線路を通る汽車の音が、大きく、はっきりと聞えるときは、天気の変る、前兆であったのを覚えている。

僅か五十年も経っていないのに現世のせせこましさはどうだ。何んとなくやるせなくて、せつねえや。

（つづく）

精密歯車装置設計　製作
精密機械仕上加工及組立

若葉精密工業株式会社

取締役社長　土屋　学　（31期）（丸子町出身）
専務取締役　土屋　博　（47期）（〃）
取締役　土屋　孝　（44期）（〃）

東京都目黒区八雲2－8－5
電話（723）1717（代表）

美ヶ原の高原と依田川の清流と丸鉄の電車―
これは私達を育んで呉れた文字通りの故里で，
ありしばし懐しい少年期を連想させて呉れる

在京啓明会

日　時……昭和50年7月12日（土）午後1時
場　所……新宿コマ劇場前地球会館3階地球飯店　TEL（208）5241
その他……上田高校（旧中学）、染ヶ谷丘高校（旧高女）の依田窪出身者の参加を望む。希望者は下記幹事へ御連絡下さい。

連絡先……	会長	土屋　学	（上中31回生）	TEL	（723）1717
	副会長	野間　朋子	（上田高女28回生）	〃	（311）1568
	常任幹事	小林　郷司	（上中40回生）	〃	（920）6736
	幹事	上野　敏雄	（〃 43 〃）	〃	（715）6624
	〃	清水　義宰	（上高56 〃）	〃	0425（91）0187
	〃	小山　福子	（染谷丘45〃）	〃	（327）5413
	〃	早川　信子	（〃 50〃）	〃	（370）8608

事務局日誌

昭和四十九年十一月二十日　会報第十二号が発行された。春秋、わずか二回だけの発行だが、原稿広告集めの苦心は大へんなものだ。今回こそ余裕をもって、と語り合いながら、委員各位、それぞれに職業があり、いつもギリギリで徹夜もつづく。しかしそれだけに完成の歓びは大きく尊い。

十二月をユトリの心で迎えることが出来たことにホットした。

十二月一日　若手幹事の（58）林、赤池（62）飯島、岩井（63）三井、長谷川の諸氏、三千余名の本会々員、年会費納入の既、未納調査に一夜を明かす。その努力の結実大にして、年会費続々と納入され由、改めて諸氏に労を謝す。

十二月二日（月）午後六時より東京農林年金会館にて「幹事会」開催、出席四十六名、主なる件は一、年会費の納入状況（58）林会計幹事より詳細報告あり（牧内代理）

一、（25）馬場　長市幹事より七十才以上の会員からは年会費納入の協力請願をせざるよう、大先輩として自由意思を尊重すべき提案あり、協議の末、振込用紙は送付するも、未納明細云々の明示はせざることを議決、次号会報発行より実施と決定する。

一、「会報贈呈先き」「関東支部名簿作成の件」及び明年「幹事会兼新年宴会」の諸案を議了する。

十二月十六日（月）会報第十二号を母校教職員八十部、在校生へ一千三百部、同窓会本部へ百部上田市役所、上田染谷丘高校へ各五十部、贈呈す。（31）矢島、（36）花岡、石倉の三氏にて車を馳せ無事任をつくす。

昭和五十年二月十四日（火）午後六時、東京農林年金会館にて「幹事会兼新年宴会」開催す。

詳細報告は別記（40）小林郷司副幹事長の手記を、ごらん願いたい。

二月二十五日（土）午后六時より、「みづほ」にて、「経済問題懇談会」ひらく。青年、少壮の経済界に活やくする本会々員の熱気あふれる会合であった。（48）小木曽　誠幹事の報告記参照されたい。

三月二十二日（水）正午より、丸ビル内「花月食堂」にて「東信地区高校同窓会連合会、常任理事会」開催される。

本会を代表し（23）大森支部長出席、大略次の如き打合せ協議事項あり。

一、単位同窓会発展策に関する件

一、会員拡充方策に関する件

諸々議論、意見あるも後日とりまとめ報告のこと。

東信地区の幹事会は二ヶ月に一回開催し奇数月の第三火曜と致したき由、更に東信地区大会を一校五名出席として、四月下旬開催と諸案とともにきまる。

四月十八日（金）午后六時、東京農林年金会館にて「幹事会」ひらく。出席四十四名。

主なる議案を簡述すれば、

一、第十四回、関東支部大会開催について、（日時、会場、会費、通知状、大会次第、来賓等）の諸件を議し、本大会委員長に（30）尾台　三吉副支部長　受付責任者に（43）上野　敏雄幹事に決る。

詳細は大会委員一同に一任。

一、会報「うえだ」第十三号発行について、（36）花岡編集委員長より詳細説明があり、協力を極力依頼。

一、関東支部名簿作成について、（31）矢島名簿編集責任幹事より各期代表幹事に、名簿原稿手交し積極的協力を懇請。

一、「前十三回大会の記録、八ミリ映画」試写会、旧部、松浦武雄先生直作による映画を一同で観賞させていただく。感深く、昨年の感激が強く蘇える。松浦先生に一同心よの御礼申し上げた次第。

四月二十四日（金）午後六時より高円寺の根津会館にて、「長野県高校同窓連東信地区連合会総会」開催さる。

東信地区の僚友校、十七校の各東京同窓会代表者が参集盛会であった。この報告も別記（36）石倉幹事の手記を参考とせられたい。

五月二十一日（水）午後六時、「みづほ」にて、編集会議及び大会開催準備打合会ひらく。大森支部長始め大会委員兼編集委員など総員一九名参集、大会運営、余興などに議論高まる。会報第十三号の原稿、広告の資料を各グループに配布し、責任頁の編集について本月末に発行見込みつく。

結びに

各委員のみでなく一般会員諸氏の協力が非常に多く、わが上田高校同窓会、関東支部の各分野の活動はめざましいものがある。

諸案、懸案も多々あるが、その一つ一つを慎重に、有意義に検討し実行してゆくことが大切なことであることはいうまでもない。

会員諸賢の絶大なる支援と御協力をお願い申し上げ、本会の発展を共に祈念致したい。

（31）矢島記

住所変更者

（8）二宮　保孝　京都府長岡京市竹ノ台一B三一四〇五号
（23）桑原　民二　鎌倉市西鎌倉四一十五一三
（23）竹内　保　大田区南馬込四一二六錦荘四〇五
（30）尾台　三吉　千葉市朝日丘町三二四一二
（36）村山　一郎　埼玉県大里郡開部町大字菅沢寺一五〇七一四一五一
（37）大塚次郎　広島市己斐西町四三一二〇
重三郎　鎌倉市津四八三
（40）砂田　辰雄　三鷹市深大寺三七七〇一九
（41）甲田　睿　三鷹市上連雀七一二八一一一
（42）村山　篤　千葉市高州二一八一八一三一四QP家庭教師研究所附鳴学院
（44）生島　和幸　横浜市港南区日野町四四二一
（44）手塚　敬一　名古屋市千種区西山元町一一二一
（46）関光司　松本市中央四一五一二五
（50）星谷　嘉一郎　習志野市鷺沼町一一十八一二四習志野ビレジ六一二〇二
（52）宮島　広人　市川市二俣六七八
（55）槻沢　大三郎　浦和市栄和六三一二一四〇六
（56）大塚　明　彦木更津市永井作二二〇一
（57）青木　周二　横浜市旭区左近山団地二一二一五〇四
（58）滝沢　一彦　横浜市金沢区泥亀町八八番地金沢八景宿舎一一三〇一
（59）有賀　勝雄　高石市東羽衣五一一八住友銀行羽衣寮一一四号
（60）小島　建二　横浜市戸塚区飯島町五二七飯島団地一一四
高末　甲子雄　在ヲメリカ
（40）浅田　造　名古屋市千種区園山町三一二
（42）谷島　啓之　市川市市川一一三二一九
メジン市川三〇九
（44）小山　久治　八王子市中山五一三
（46）足立　隆　東京都西多摩郡羽村町羽村二六九三
（47）井出　信衛　松山市秦原町八七九一一
（47）余地　毅　浦和市中島一七九一八
（48）小山　馨　在ザイール
（48）吉村　功　杉並区高井戸三一十五一十七新日鉄社宅
（49）田沢　明　福岡市南区平和二一三三一三
（50）石川　和男　横浜市緑区奈良町二九九八一六九
（51）丸山　弘　品川区小山台
（56）滝沢　健　大宮市別府町四五一一～一四〇三
（56）高村　順一　入間市藤沢四〇六
狭山グリーンビル二二一二〇四
（56）与良　正敏　船橋市三咲町四二五一一一二二
（57）伊藤　紘二　清瀬市下宿一清瀬台住宅八一一〇四
（57）小島　渉　横浜市磯子区森一一十一四パシフィック磯子マンション八〇五
（57）箱山　雍　相模原市千代田三一十二一二
（57）松木　功　足立区梅田七一二一梅島ハイツ五〇一
（58）井沢　敬　船橋市西船一一二四一二ゼネラルマンション四一三
（58）一条　太郎　藤沢市本鴻沼二〇四
（58）小泉　健　豊中市春日町二一十三一十七
（58）小島　住雄、世田区奥沢三一三三一一六
（58）桜井　忠司　八千代市高津団地六一十四一二〇四
（58）中沢　民雄　川越市仙波町三一三三一四三
（58）中島　秀忠　立川市富士見町五一十七一六丸山荘一号
（59）饗場　賢司　入間市善蔵新田一四七一七
（59）小山　法幸　北区豊島五一六一一〇一五〇七
（59）宮島　健治　藤沢市辻堂一四六六
（59）宮島　猛男　横浜市緑区市ヶ尾一六七八一一四
（59）柳沢　英之　柏市八幡三一三一二〇六
（59）萩原　清人　名古屋市昭和区鶴舞四一十三一三三日銀幸梁家族寮

おくやみ

つつしみて御冥福を祈り、御遺族様に心より、おくやみ申し上げます。

●（3）伊沢　新
昭和四十九年十一月十八日
御子息渉一氏より文書で報告

●（18）遠藤　文介
昭和五十年四月二日
御舎弟恭介氏より（21）島田相談役へ文書で連絡

●（18）島田　善雄
昭和五十年一月七日
御妻女千枝子様より文書報告

●（24）矢島　美貞
昭和四十九年七月十六日
御妻女貞子様より文書報告

●（30）大森　松夫
昭和五十年三月十日
令兄（23）大森頼雄氏より文書報告

●（42）土屋　賢一
昭和四十六年（月日不詳）
知人より文書報告

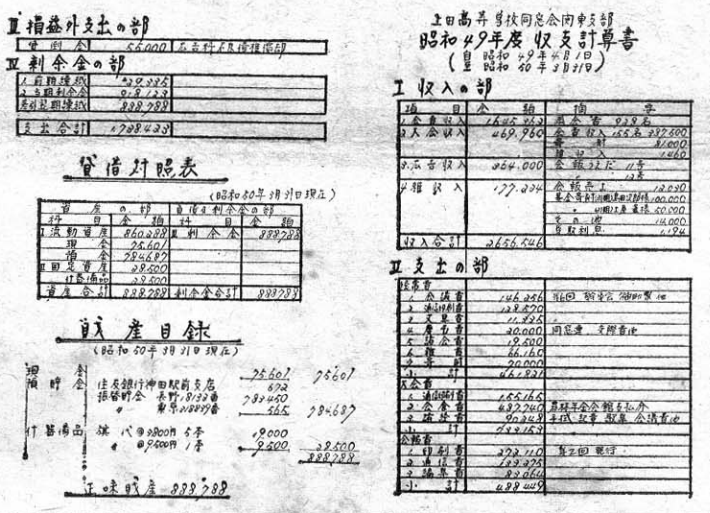
以上（合掌）

監査報告

昭和49年度収支計算書、貸借対照表、及び財産目録について、関係書類及び帳簿を監査したところ適正であると認めました。

昭和50年4月18日

監事　柳澤　正春（22期）
監事　馬場　長市（25期）



会計幹事より「お礼言上とお願い」

会計幹事　牧内　操

昭和49年度は、会費納入につきましては、同窓各位より積極的に御協力賜り、お陰様にて、別表記載のとおり立派な会計報告が出来るようになりました。深く感謝申し上げます。なお、50年度分会費につきましても会報に同封しました振替用紙を御利用下さいまして納入して戴くようお願い申し上げます。

同窓各位の益々の御清栄と御健康を祈ります。以上。

▽編集後記△

若葉薫る季節、皆さんお元気ですか、不景気になると祭が盛んであるが、今年は各地で盛大な祭が報道されている。

経済界もいくらか安定してきたが、まだまだきびしい。年一回の関東支部大会だ、仕事を忘れての一夕の歓談は明日の活力となる。例年のように多数のご出席で、盛況を期待したい。

5・21　午後六時「みづほ」に次の各委員が集合、本号の編集会議を兼ね今次大同の準備についての打合せ、大森支部長さんも特に出席されて、熱心に討議した。

委員の一部入れ替えがあって、新らしく㊽山崎延秋・㊿三井明・(60)小林秀芳の三君が追加された。

大森支部長の激励の挨拶、矢島副支部長の項目別の説明、花岡委員長の編集上の留意事項など、僅か二時間足らずでは無理。

続いて大会当日の打合せ、受付けの責任者である㊸上野敏雄君も多忙のところ出席して、その熱意は、全て大会をなんとか楽しんで貰いたい気持から。

（出席者）（23）大森・（31）矢島・（31）土屋・（32）中村・（35）花岡・（35）石倉・（36）伊藤・（37）関・（38）清水・（43）上野・（48）柳沢・小木曽・山崎・（51）村田・（56）堀内・清水・小宮山・（60）小林・（62）岩井の各委員

5・27　夜矢島副支部長宅に矢島・花岡・石倉・村田・小林の委員が集合。整理割付、不足原稿の追加など、終ったのが夜中の二時半と、ヤレヤレ何時ものことながら委員のみなさんご苦労さん。

なお（38）清水・（48）柳沢委員は、各担当面を仕事の関係上自宅でまとめて貰ったこと、並びに（51）村田委員の活躍には特に感謝。

未筆になりましたが、原稿の提供・広告の掲載にご協力下さった方々に厚くお礼申し上げます。

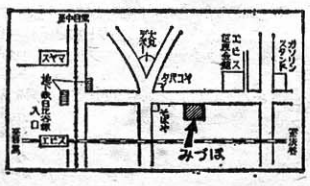
5・28　工場に出張校正、矢島・中村・花岡・石倉・関・小木曽・柳沢・村田・岩井の委員が午後からご足労願う。矢島氏の教え子である矢風の会員（女性のみ）十名が、一緒になってお手伝いいただき、お陰さまでアッという間に終った、多謝。

（H記）

合成樹脂・ダイキャストならびにプレス金型製造・付属する一般成形
兼万工業株式会社
社長　春日　敦美（46期）
本社　上尾市西宮下30　TEL 0487—71—2117 (代)
アイディアがありましたらご一報下さい

上田高校　経済問題懇談会
若さと英知で世紀の不況をふっとばせ!!

松尾球友会
会長　片岡武雄（16期）副会長　馬場長市（25期）勝俣　拡（27期）
東大捕手渋沢稔主将・明大投手丸山清光主将
目下大活躍、御声援下さい
連絡先（32）中村礼三TEL.（398）6045　杉並区成田西2—22—21

天ぷら、ふぐ、活魚
割烹　幸村（ゆきむら）
ふるさとの味です。御宴会、御商談御家族連れに御利用下さい。
新宿区戸塚町2—99
TEL 03—200—0775
三井　明（51期）（上田市新田出身）

クラス会・ご商談・ご会合に
ご利用のほどお待ち申し上げます
割烹　みづほ
東京都渋谷区恵比寿西2の2
電話　461—8663